

US stock investment with the most consistent FIRE in the world

世界一堅実に
FIREする

米国株 投資



Financial Free College代表
山口貴大
ライオン兄さん



“FIREするための専門投資スクール”
（Financial Free College）

FIRE達成者
続出の
ヒミツを
公開!

日本初!米国株の講座で**3冠**を取得!



未経験から学べる
お金のスクール No.1



結果が見込める
お金のスクール No.1



投資家が推奨する
お金のスクール No.1



はじめに

「毎日を楽しく過ごし、自分のやりたいことだけをやりたい」

「好きでもない仕事や、嫌な上司と関わることなく、自由に過ごしたい」

きっとあなたはこうした想いを抱きながら、YouTubeやX(旧Twitter)でFIRE(Financial Independence, Retirement Early…経済的自立、早期退職)についての情報収集をしているのではないだろうか。

理想的な生活を送れるような人生を目指したいものの、どのように選んだらいいのか分からず悩んでいる方も多いでしょう。

さらに投資についてリサーチをしても、初心者にとっては内容が難しい上に、始めるまでのハードルも高く感じてしまうもの。

「投資信託やインデックス投資、どれも名前だけは聞いたことがあるけど、よく分からない…」

このように悩む投資初心者の方のために、本書では主に、特定の株価指数の動きを追う形で投資を行う「**インデックス投資**」を利用し、着実にFIREを実現するための方法を解説します。これからお伝えする内容を実践すれば、資産運用でセルフ年金を作ることにも可能です。

そもそも、なぜFIREを達成するために資産運用が必要なのでしょう。その理由は効率が良いからです。

2023年現在、多くの銀行が金利を0・001%に設定していますが、このような状況で、仮に100万円の資産を2倍にするには、なんと7万2000年

もの期間が必要です。もし10年前に100万円を貯金していたとしても、10年間で1000円しか利息が付かない計算になります。

一方、米国の代表的な株価指数であるS&P 500に対して、2013年に100万円をインデックス投資していた場合、2023年の運用額は2倍以上に増えていきます。

S&P 500は、米国の金融会社である「S & Pダウ・ジョーンズ・インデックス」が公表している指数であり、米国の大手上場企業500社の株価の平均値を示しているため、米

【S&P500 チャート】



出典：Trading View

国経済の健全性や動向を示すバロメーターとして広く利用されています。

このように株式市場への投資は、長期間で見ると高いリターンを期待できるのです。たしかに銀行にお金を預けることも資産運用の手段の1つかもありませんが、それでは大きな利益を得られず、FIREで自由な生活を勝ち取ることができないのです。

それでは、FIREを達成するために必要なステップを見ていきましょう。具体的な流れは次の通りです。

1. 投資のタネ銭(資産)をつくる
2. 資産を運用する
3. 資産が大きくなったらリタイアする
4. 生活費は資産のうち一部を取り崩してあてる

特に4の「資産の取り崩し」は重要で、配分を間違えると老後まで資金を維持できません。この取り崩しの額は、4%ルールで計算できます。

4%ルールとは、年間支出の25倍の資産を米国株インデックス投資投で築き、年間4%ずつ売却した利益と分配金で生活するというルール。

例えば、あなたが120万円で1年間生活できるのなら、その120万円の25倍、すなわち3000万円の資産をインデックス投資で築きます。

築き上げた3000万円を年間4%の利回りで運用できれば、あなたは生活費の120万円を自動的に獲得できるので、FIREを達成できるのです。

ここに分配金を加えれば、さらに利益は大きくなるでしょう。

この4%ルールの根拠は、トリニティ・スタディです。トリニティ・スタディ

1926年～1995年の実績に基づく インフレ考慮後のポートフォリオの成功確率

		年間のポートフォリオからの取り崩し率										
		株式 100%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	11%	12%
取り崩し期間	15年	100	100	100	91	79	70	63	55	43	34	
	20年	100	100	88	75	63	53	43	33	29	24	
	25年	100	100	87	70	59	46	35	30	26	20	
	30年	100	95	85	68	59	41	34	34	27	15	
		株式 75%、債券 25%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	11%	12%
取り崩し期間	15年	100	100	100	95	82	68	64	46	36	27	
	20年	100	100	90	75	61	51	37	27	20	12	
	25年	100	100	80	65	50	37	30	22	7	2	
	30年	100	98	76	68	49	34	22	7	2	0	
		株式 50%、債券 50%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	11%	12%
取り崩し期間	15年	100	100	100	93	79	64	50	32	23	13	
	20年	100	100	90	75	55	33	22	10	0	0	
	25年	100	100	80	57	37	20	7	0	0	0	
	30年	100	95	76	51	17	5	0	0	0	0	
		株式 25%、債券 75%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	11%	12%
取り崩し期間	15年	100	100	100	89	70	50	32	18	13	7	
	20年	100	100	82	47	31	16	8	4	0	0	
	25年	100	93	48	24	15	4	2	0	0	0	
	30年	100	71	27	20	5	0	0	0	0	0	
		債券 100%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	11%	12%
取り崩し期間	15年	100	100	100	71	39	21	18	16	14	9	
	20年	100	90	47	20	14	12	10	2	0	0	
	25年	100	46	17	15	11	2	0	0	0	0	
	30年	80	20	17	12	0	0	0	0	0	0	

株式は S&P500、債券は高格付け企業の長期債、インフレ率は消費者物価指数で 1926 年～1995 年の各取り崩し期間の平均値で計算

出典：Phillip L.Cooley, Carl M.Hubbard and Daniel T.Waiz 1998
 “Retirement Savings: Choosing a Withdrawal Rate That is Sustainable”

とは、1998年に米国のテキサス州にあるトリニティ大学の経済学者たちが行った資産運用に関する研究で、「退職後に毎年、何%ずつ資産を取り崩せば、最後までゼロにならないか」をシミュレーションしたものです。

取り崩し率が4%以下の場合、図のように株式比率を50%以上にすれば、どの資産配分でも25年間資産を一銭も減らさずに運用益だけで生活できるとされています。

そのため資産3000万円を貯蓄し、毎年4%の利回りで運用できれば、1年間で120万円を得られるので、FIREを達成できます。

「年間120万円では生活が厳しい。そこまで節約できないから毎月20万円は必要」という方であっても、資産が6000万円あれば可能です。



「資産運用をしよう!」という言葉で世界一広めたギネス世界記録

前著「年収300万円FIRE 貯金ゼロから

7年でセミリタイアする『お金の増やし方』

(KADOKAWA)では、年収300万円でも

7年でサイドFIRE(支出の半分を資産収入で、

もう半分を好きな仕事をして労働収入でまかなう

方法)を達成する方法について触れていますので、

もし良ければ参考にしてみてください。

私自身、32歳・年収300万円台でFIREを

実現した経験から、こうした資産運用のメリット

を実感しています。

また、「資産運用をしよう!」という言葉で世

界一広めたというギネス記録も保持しており、主

催する金融・起業のマネースクールは米国株講座で日本初の3冠を取得しています(次の3つ)。

- 未経験から学べるお金のスクール No・1
- 結果が見込めるお金のスクール No・1
- 投資家が推奨するお金のスクール No・1

しかし、常に順調な人生を歩んできたわけではありません。20〜30歳までの私は、休みがほとんどない会社で働きながら、生活費を稼ぐためだけに仕事をする日々を送っていました。

多忙な中で投資の知識をゼロから学びFIREを達成すると、私の人生は180度変わりました。大好きなサーフィンを楽しむ時間が増え、毎日ワクワクした気持ちで心から楽しめるようになりました。そして、コロナ禍がきっかけ

で投資に関する動画配信を始めることになり、今ではSNSで40万人以上のフォロワーを持つまでになりました。

多くの受講生から「今の生活が不安」という声を聞きながら、その悩み解決のサポートをする仕事に情熱を注いでいます。

以前は生活費を稼ぐためだけの仕事に追われていた私ですが、FIREを実現したことで、真のやりがいを見つけられました。

私の最大の願いは、1人でも多くの方にFIREという生き方の魅力を知ってもらい、人生の自由や楽しさを実感してもらうことです。その想いを込めて、この本も執筆しています。FIREで自由を手に入れ、一緒にハッピーな人生を送りましょう。

山口貴大(ライオン兄さん)

はじめに…………… 2

第 1 章

なぜ F I R E 実現に 投資が必要なの？

あなたが投資に挑戦するべき 6 つの理由…………… 18

第 2 章

投資における リスクとリターンの関係

「投資ってギャンブルじゃないの？」という誤解…………… 36

CONTENTS



第3章



投資初心者には インデックス投資がおすすめ

リスクとリターンについて…………… 42

投資で生じるリスクの種類…………… 45

リスクにどう対応すれば良いのか？…………… 48

インデックス投資とは？…………… 52

投資の基本は長期・分散・積立…………… 55

長期資産運用をするなら

「インデックスファンドで投信積立」がおすすめ…………… 64

第4章



FIREを目指すなら S&P500か VTIがおすすすめ!

投資信託とETFの違い……………76

投資信託でFIREを目指したい方におすすすめの銘柄……………79

ETFでFIREを目指したい方におすすすめの銘柄……………84

VTI(米国ETF)とは……………92

米国に集中投資するのが心配な方は全世界株式がおすすすめ!……………95

投資信託とETF、どちらにすれば良い?……………99

第5章



【2024年から改正】 新NISAは非課税枠が拡大

NISAとは「税負担を軽減できる制度」……………108

新NISAの仕組み……………111

新NISAの主な改正ポイントは？……………115

新NISAで資産1億円を貯めるには？……………120

【コラム】ドルの破綻で米国株が暴落する……………123

第6章



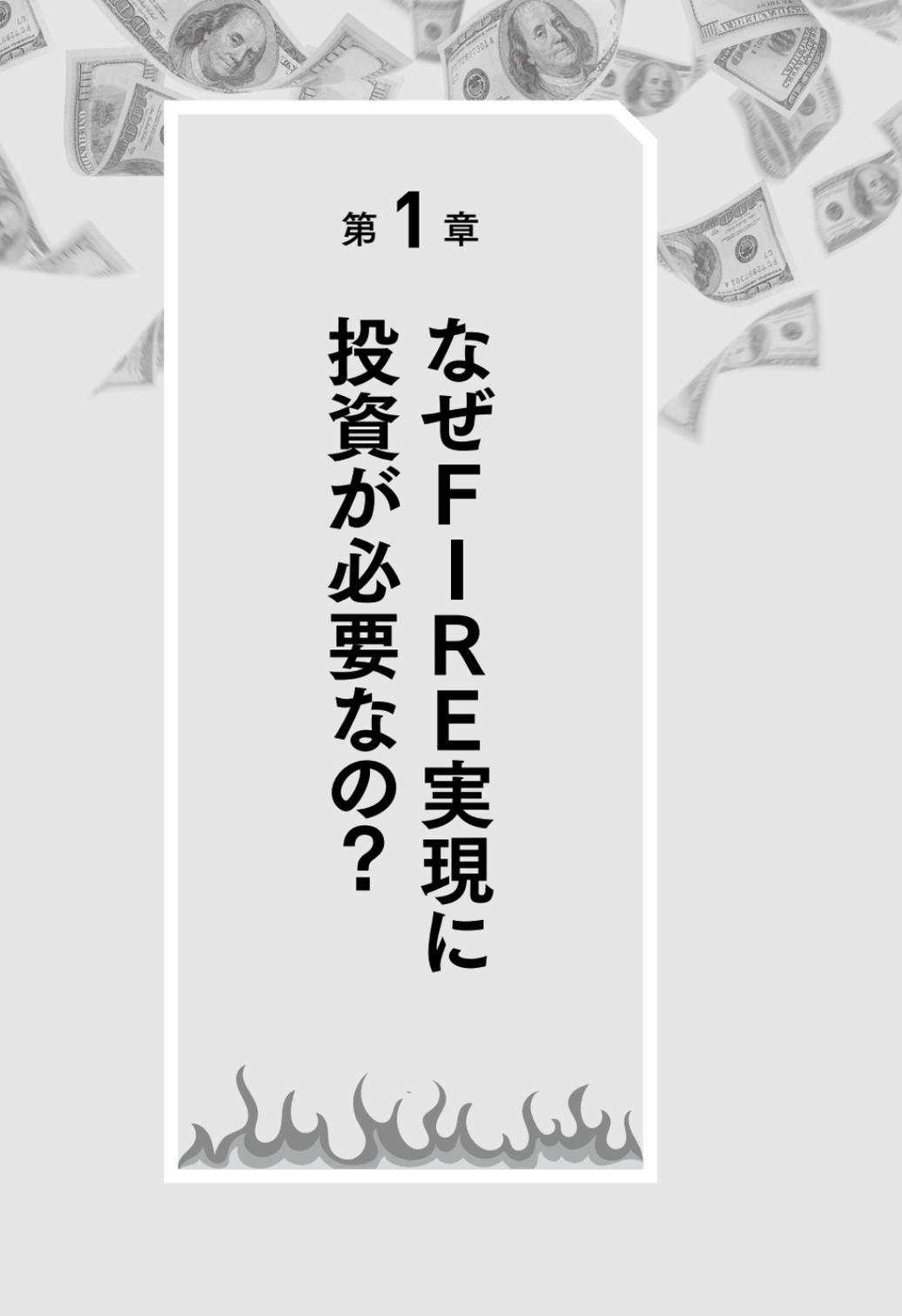
実績で見る資産運用の コンサルティング

FFC(Financial Free College)とは……………128

FIREを達成したFFC受講生の声……………132

FFCを設立した想い……………151

おわりに……………154



第1章

なぜFIRE実現に
投資が必要なの？



あなたが投資に挑戦すべき6つの理由

冒頭では、FIREを実現するために効率よく資産を増やす方法について説明しました。しかし投資の経験がない方にとっては、ややハードルが高いかもしれません。

たしかに投資は、未経験者には馴染みのない用語が多く出てきますので、初めの頃は苦労するでしょう。

ですが投資の基礎を押さえて実践していくのは、多くのFIRE達成者が通ってきた道です。自由な生活ができるようになるためには、投資が不可欠なのです。

本章では、あなたが投資に挑戦するべき6つの理由を紹介します。



【理由1】インフレーションの影響を受ける

インデックス投資した場合の利回りの方がインフレ率よりも大きいいため、資産を守りつつ増やしていきければ、投資が必要になるのです。

インフレ（インフレーション）とは、物価が上昇し、通貨の価値が低下する現象を指します。経済協力開発機構（OECD）が公開しているデータによると、**2012年からの10年間、日本のインフレ率は年率平均0・5%で推移しています。**

2022年以降はロシア・ウクライナの戦争などの影響によって特にインフレが進行し、食料品の値上げも多く見られました。身近な例を紹介すると、2023年には薄皮つぶあんぱん（山崎製パン）などの1セットあたりの数量が、価格はそのまま5個から4個に減少しました。

その他にも小麦やガソリンなど、さまざまな日用品価格の上昇を経験した方は多いでしょう。

インフレにより物価が上昇すると、同じ額のお金では以前よりも少ないものしか買えなくなりそうです。

国際通貨基金（IMF）のデータによると、世界のインフレ率は2022年をピークに、以後低下していく見通しですが、2023年は6・8%、2024年には5・2%と、依然として高い水準が続くと予測されています。

何も対策せずにお金を銀行に預金していくと、あなたの資産は目減りしていく恐れがあるでしょう。

一方、**投資の世界ではインデックス投資の利回りは平均で4〜5%**とされています。この数字は、全米や全世界の株式などに連動するインデックスファンドの年平均リターンの下限值として知られています。

冒頭で触れたS&P500の成長率の高さからも、インフレ率を上回る資産の形成が期待できます。チャートを見ると、10年間で指数が約2倍になっていましたね。



こうしてインフレ率と比較してみると、インデックス投資は資産を守り増やすために有効な手段だと言えます。資産が目減りするインフレの影響を受けず、FIRE成功のため安定したリターンを追求するには、インデックス投資を検討する価値があります。

【理由2】円安の影響を受ける

円安が進行する中、単に貯金をしているだけでは、資産価値は減っていくことが懸念されます。2021年、1ドルは約100円でしたが、2022年10月には一時150円を超えるなど、円安が進行しています。

すなわち、以前は100万円あれば1万ドルを購入することができたのに、わずか1年で150万円もの資金が必要となったわけです。このように、銀行預金のみで資産を管理していると資産価値が目減りするだけでなく、米国株などの海外投資を行う際の投資資金も減少してしまいます。

さらに、日本は食料などの多くを輸入に頼っています。円安が進むと輸入品の価格が上昇し、物価が高騰します。

次の図は農林水産省が公開している食料自給率のデータです。ここには「生産額ベース食料自給率」と「カロリーベース食料自給率」があり、2つの違いは本書では割愛しますが、いずれも1965年（昭和40年）から2022年（令和4年）にかけて、長期的に低下しています。

これが円安の影響を受けやすい状況を生んでいるのです。

また総務省のデータによれば、2023年7月の物

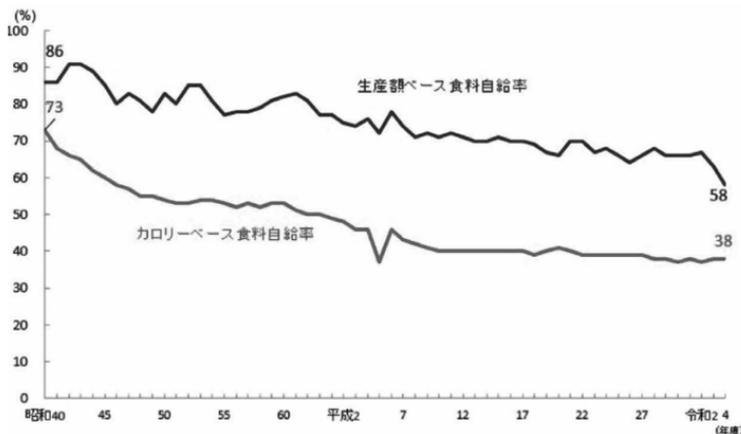
【ドル円 チャート】



出典：Yahoo! ファイナンス



【日本の食料自給率の推移】



出典：農林水産省 | 日本の食料自給率

価の変動を示す消費者物価指数（CPI）は前年同月比で3・1%上昇し、12カ月連続で3%を上回る事態となっています。特に、生鮮食品とエネルギーを除く総合指数は4・3%も上昇し、1981年の第2次石油危機以来の高い上げ幅となっています。

このような状況下で資産を守るためには、円安の影響を受けにくい投資先を選ぶ必要があります。

【理由3】収入源を依存することになる

収入源を労働収入だけに依存すると、全体的な資産が増えていかないリスクが高まります。です

ので労働収入に加えて、並行して投資で資産運用することが必要不可欠です。

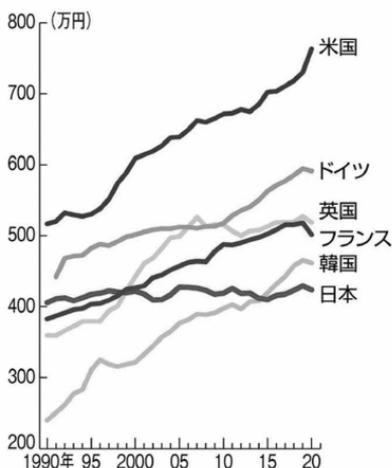
特に注意するべきは、平均賃金の低さです。

日本の賃金は、過去30年間で大きな上昇を見せていません。 実際、G7諸国の平均賃金の推移を見ると、日本は30年近く横ばいの状態が続いています。

1990年代初頭には米国、ドイツに次ぐ3番目の水準であった平均賃金は、2020年には韓国より下になっています。

この背景には、企業の人件費の抑制や賃金

【主要国の平均賃金(年収)の推移】



出典：朝日新聞 | 韓国に抜かれた日本の平均賃金
上がらぬ理由は生産性がそれとも… (2021年10月20日)
※データ自体は OECD 調べ



水準の低いサービス産業の拡大、非正規雇用の増加などが挙げられます。

最近では副業や資産形成を意識する方が増えてきましたが、欧米と比較すると、日本の資産形成はまだまだ遅れています。

米連邦準備制度理事会（FRB）のデータによれば、日本人の金融資産は2021年9月末時点で約2000兆円であり、これは1人当たり約1600万円に相当します。

それに対して米国人の金融資産は、2021年6月末時点で約113兆ドル（1京2800兆円）。

2000年から20年間で、米国人の金融資産は約3倍に増加しましたが、日本人の場合には1.4倍にとどまっています。

このデータから、米国の個人金融資産の伸びは日本よりも著しく、その差が拡大していることが明らかです。

さらに日本の個人金融資産の内訳を詳しく見ると、最も多いのは「預貯金」であり、全体の半分以上を占めていました。

FIRE達成には株式市場への投資も欠かせませんが、「株式・債券等」の資産保有割合は全体の約15%に過ぎません。

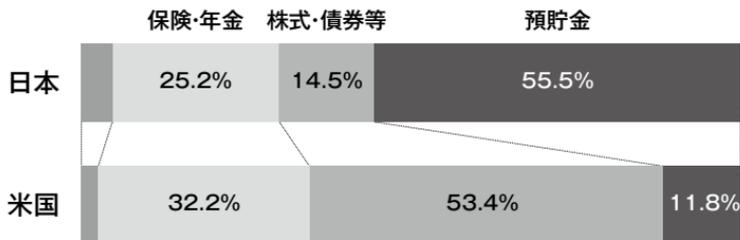
対照的に米国では「株式・債券等」が約半分を占め、一方で「預貯金」は約12%。この内訳の違いは、日本の家計が資産運用に対するリスク回避的な姿勢を示していることを物語っています。米国の家計は、株式や債券といった投資先に資産を分散させることで、高いリターンを追求しているのです。

これらの点を基に考えると、日本は米国と比べて資産形成において後れをとっていることが明らかです。日本の家計における資産運用が預貯金を主としている現状は、資産の増加が鈍化している主要な要因となっています。

日本人も労働収入だけに依存するのではなく、資産を増やすための投資が必要であり、それが今後の資産形成の鍵になるでしょう。



【日本と米国の個人金融資産の内訳】



出典：岡三証券 | 個人の金融資産、日米で差が開き続ける理由は？（OECD “Household financial assets” の各国の2019年末のデータよりウェルスナビ社作成）

【理由4】将来の資金計画に支障が出る

預貯金だけではFIRE実現が困難であることは繰り返し解説してきました。ただ、それだけではなく老後の生活資金の確保も難しくなる点に注意してください。

ニュースなどで「老後2000万円問題」について聞いたことはないでしょうか。金融庁の試算において、「老後20〜30年間で約1300〜2000万円が不足する」と指摘されたことから、この問題が注目され始めました。

具体的には、**夫が65歳以上、妻が60歳以上の夫婦のみの無職世帯では、毎月約5・5万円の不足が生じると**されています。とはいえ、この金額はあくまでモデルケースで、

実際の不足額は個人の生活スタイルや収入によって異なります。

それでは、老後に備えて資金を用意するならば、現時点でいくら貯金があるのが望ましいのでしょうか。

年代別の平均貯金額（中央値）を見ると、20代では71万円、30代では240万円、40代では365万円、50代では600万円、60代では650万円となっています。なお、これには金融資産も含まれており、現金だけの数値ではありません。

老後2000万円問題でも指摘されている通り、年金だけでは最低限の生活ですら維持するのは難しいとされています。

【年代別の平均貯金額（中央値）】

年代	平均貯金額(万円)
20代	71
30代	240
40代	365
50代	600
60代	650



仮に65歳までに夫婦で1500万円の貯金が必要だとした場合、年代別の必要最低貯金額を計算すると、20代では100万円、30代では500万円、40代では900万円、50代では1300万円、60代では1500万円となります。

このデータを見ると、平均貯金額と必要最低貯金額の間には大きな乖離が生じていると分かります。特に、40代以上の方々は平均貯金額との乖離が深刻なため、平均だけを知るのではなく、必要最低貯金額の把握が重要となります。

詳しくはYou Tubeチャンネル「ライオン兄さんの米国株FIREが最強」の「これ以下は危険です!!! 年代別で最低必要な貯金額【2021年版】」でも紹介してい

【平均貯金額と必要最低貯金額の差】

年代	平均貯金額 (万円)	必要最低貯 金額(万円)	差分(万円)
20代	71	100	-29
30代	240	500	-260
40代	365	900	-535
50代	600	1300	-700
60代	650	1500	-850

るので、ぜひ参考にしてください。

こうした実情から老後の生活資金を確保するためには、貯金だけに頼るのではなく、資産運用を検討することが必要です。

現在40代で貯金が900万円もない方には特に、資産運用を強くおすすめします。資産運用を通じて将来の生活資金をしっかりと確保し、安心した老後を迎えられるようにしましょう。

【理由5】緊急時に資金不足に陥るリスクがある

緊急時の余剰資金を確保するためには、投資の活用が必須です。

突然の事態、例えば病気やケガで働けなくなった場合、生計を維持するための資金が必要となります。このようなケースに備え、月の生活費の3〜6カ月分、あるいは1〜2年分の資金を蓄えておくことが推奨されています。これを「緊急予備資金」と呼びます。



私がおすすめる額は、**現役の方は生活費の半年分、リタイア済みの方は1〜2年分ほど**です。

月の生活費が20万円の方であれば、半年分の緊急予備資金としては120万円、1年分なら240万円、2年分なら480万円が必要となります。

また多くの方が、病気やケガのリスクをカバーするために保険に加入していますが、保険に入りすぎていると、実はその保険料が無駄になっていく可能性があります。

特に、保険料の一部が運用に回される積立保険は、運用コストが高い割には実際のリターン率が低いいため、損をしている場合が多いのです。

したがって、保険は必要最低限にとどめ、余剰の資金は資産運用に回すよう心がけると良いでしょう。

【理由6】機会損失になる

投資をしないことは、結果的に収益を得るチャンス逃すことにつながります。

現在の日本の金利環境は、預金による収益を期待するには厳しいものとなっています。例えば、冒頭でも触れた通り、銀行の金利が0・001%の場合、100万円を2倍にするためには7万2000年もの時間が必要となります。これでは長期間お金を預けたとしても、投資効果は期待できません。

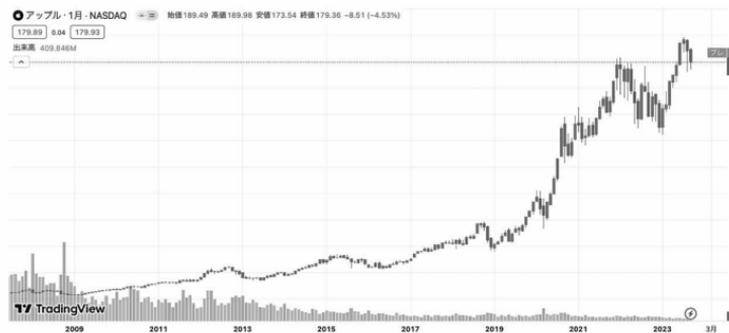
一方で成長企業へ投資すると、大きなリターン

【有名な米国企業と特徴】

企業名	特徴
Apple	自社株買いを多く行っており、投資家への利益還元力が魅力的。
Alphabet	自己資本比率が高く、キャッシュが潤沢で、GAF.Aの中でも堅調な成長が期待されている。
Amazon	物流から宇宙事業まで幅広い事業展開で知られており、多角的なビジネスを展開している。
NVIDIA	利益率と成長率が高く、今後の成長に注目が寄せられている企業。
Microsoft	収益の安定性が魅力的で、株価が堅調に成長している。



【Apple 株価チャート】



出典：Trading View

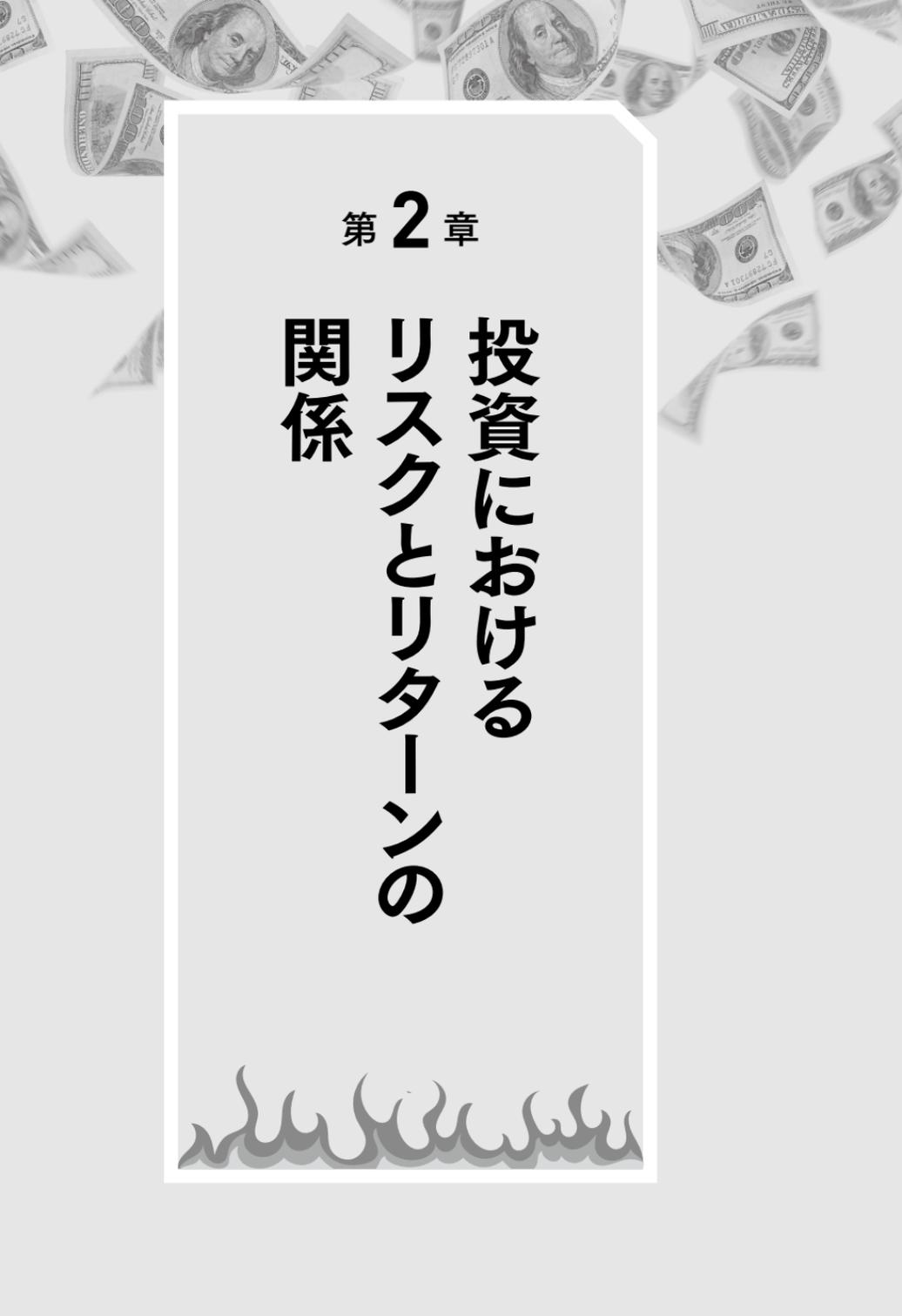
が期待できます。ここでは世界的な米国株企業の一部を取り上げ、その特徴と魅力を紹介します。

例えば、Appleのような時価総額ランキング上位の企業に10年間投資した場合のリターンは、次のチャートからも分かる通り、大きなものとなります。

Appleの株価は2003年1月には0・3ドルでしたが、2023年には140ドルにまで上がっており、その20年間で株価は約467倍になっています。

このような銘柄が組み込まれているインデックスファンドは、安全性と成長の可能性を兼ね備えており、初心者にもおすすすめです。

以上、6つの理由から、FIREを目指すためには投資が必須となります。預金だけでは、収益を得るチャンスを逃してしまうため、成長企業への投資を積極的に行い、将来の資産形成を目指しましょう。



第 2 章

投資における
リスクとリターンの
関係



「投資ってギャンブルじゃないの?」という誤解

第1章ではなぜ投資が必要なのか、その理由について6つの観点から詳しく説明しました。インフレや円安のリスク回避になるだけではなく、老後資金や緊急時の備えにもなる点などに触れてきました。銀行にお金を預けているだけでは、FIREに到達し、自由を手に入れるのが難しいとご理解いただけたかと思います。

本章では、投資を始める前に知っておきたい投資とギャンブル・投機の違いや、リスクとリターンの関係について深掘りしていきます。FIREを目指すための正しいマインドセットと、リスク対応の方法を学んでいきましょう。



本書を読んでいる皆さんの中には、「投資とギャンブルは同じでは？」という疑問を持つ方も多いかと思いますが、投資とギャンブルは根本的に異なります。

ギャンブルとは、胴元が利益を上げるための仕組みです。還元率が1（100%）未満の場合、長期的には損をすることが確定しています。

例えば、宝くじの還元率は46%とされているので、3回連続で資金を投じると、 $1 \times 0.46 \times 0.46 \times 0.46 \approx 0.1$ となります。元手の1が0.09となり、10%未満にまで資金が減少するリスクがあります。

宝くじ以外にもパチンコ・パチスロ・競輪・競馬などのギャンブルにはおよその還元率があり、最終的に「賭け」の参加者がどれほど損をするリスクがあるのかが分かります。

【ギャンブルと還元率】

ギャンブル	還元率
パチンコ・パチスロ	80～85%
競輪	75%
競馬	74%
宝くじ	46%

また、投資はよく「投機」と同様に語られることもあります。投資と投機の違いは、次のような目的と期間にあります。

投資…長期的な利益を目的として、将来性のある投資先に資金を投じる。
投機…短期的な利益を目的として、偶発的な相場の変動を利用する。

例えば、いくつかの大企業が「ビットコイン決済の導入を決めた」と発表した後、一時的な値上がりを期待してビットコインを買う場合、これは投機になります。

一方で、投資は将来性のある資産にお金を投じます。仮に品質の良い人工知能(AI)関連サービスを提供している企業があったとして、「将来的に多くの人気を得るだろう」と予想し、その会社の株を買う場合、これは投資になります。

投機は短期的な利益を追求するため、価格の変動が大きくリスクも高いと言えるでしょう。



う。それに対して投資は長期的な視点で資産を増やすことを目的としているため、リスクは低く、安定したリターンを期待できます。

投機で素晴らしい利益を手に入れている方もいますが、金融市場の知識が少ない方が一時のチャンスで勝ち続けるのは至難の業です。

本書の目的は、投資初心者の方でもお金に働いてもらうことでFIREを実現し、セルフ年金を手に入れることであり、その点において投機はリスクが高いため、リスクコントロールに優れた方以外にはおすすりできません。

もし投機をする場合でも、資産の20〜30%にとどめるようにしましょう。

投資の最大のメリットは、資産を長期運用することで収益を狙える点です。特に株式投資の場合は、配当金として定期的に収益を得られます。さらにこうした利益を再投資すると、複利効果を体感できます。

次の金融庁のデータは、100万円の資産を単利と複利で運用した時、それぞれどれほ

どのリターンがあるのかを示しています。年利は10%です。

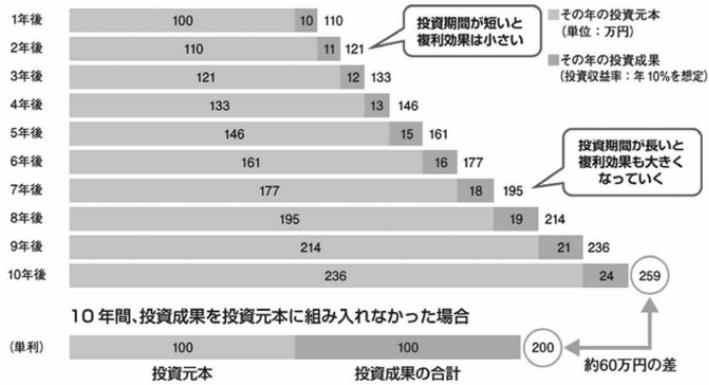
両者を比較すると、単利よりも複利で運用した方が約60万円もお得であることが明らかになっています。

すなわち、長期的に投資を続け、なおかつ複利の効果を最大限に活用すると、大きなリターンを狙うことができます。

ただし、長期投資でも全く知識がなければ、運用コストやリスクが分からず損をしてしまうケースもあります。そのため、投資を始める前には必ず自己投資をし、事前に知識を得るよう

【投資期間と複利効果の関係】

例：投資リターン(投資収益率)を年10%と想定した場合



出典：金融庁 | 投資の基本



にしましょう。

私の運営する米国株 FIRE 専門の投資スクール「Financial Free Coll
ege (FFC)」でも、こうしたリスク管理についてはしっかりとお伝えしています。長期
投資の知識を本書でしっかりと学び、FIREを達成してお金から解放された自由を手に入
れましょう。

リスクとリターンについて

投資はギャンブルや投機とは異なるという点について解説しました。ここからは投資を始める前に、リスクとリターンの関係を説明していきます。これらの概念をしっかりと把握し、賢明な投資判断ができるようにしましょう。

まずリスクとは、投資を行った結果、予想外の損失を受ける可能性を指します。

例えばある企業の株を購入し、その企業が経営不振に陥り、株価が大きく下落した場合、投資家は資産の減少を経験します。

こうした投資先の価値の下落によつて、損失を被ることが、投資でよく見られるリスクです。それに対してリターンとは、投資から得られる収益のことを指します。

株式投資の場合、リターンは配当や株価の上昇による資産価値の増加などが考えられま



す。例として、安定した業績を持つ企業の株を購入した場合、その企業が利益を上げると株価が上昇し、また定期的に配当が支払われると、投資家は利益を得られます。

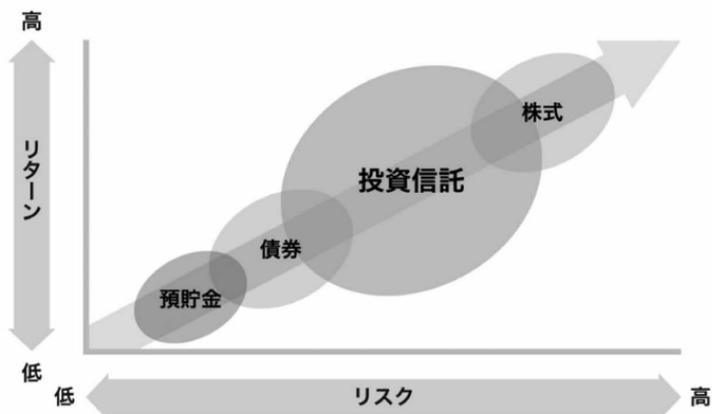
しかし、**高いリターンを求めるとき、それに伴ってリスクも高まるというのが投資の基本的な原則**です。これらは独立して存在するものではなく、片方が高まると、もう片方も高まる、という関係性を持っています。

例えば、国債や定期預金は、ある程度の基準まで元本保証があるため、リスクが低いとされています。しかしその反面、リターンも極めて低く、インフレ率を上回ることが難しいケースが多いのです。

一方で投資信託や株式は、国債や定期預金よりもリターンは高めですので、その分だけリスクも上がります。

特に新興国の株やベンチャー企業への投資は、経済の変動や企業の業績によって価格が大きく変動するため、リスクが高いとされます。しかし、そのリスクを取ることで、高いリターンを得るチャンスも増えるのです。

【投資対象におけるリスクとリターンの関係】



出典：アセットマネジメント One | 投資信託とはなにか

このように、リスクとリターンはトレードオフの関係にあります。投資を行う際には、自身のリスク許容度をしっかりと確認し、それに合ったリターンを追求する点が大切です。このリスク許容度については後述します。

リスクをできるだけ避けて安全を追求するのか、逆にリスクを取って高いリターンを目指すのか、その選択は投資家の価値観や目的によって異なります。

ただしFIREを目指す場合はできる限りリスクを避け、長期的な利益を考えて行動する必要があります。



投資で生じるリスクの種類

投資を行う際、どの金融商品を選んだとしても、リスクは避けて通れないものです。しかし、リスクにはさまざまな種類があり、それぞれの特性を理解することで、より賢明な投資判断が可能となります。ここでは、投資における主要なリスクの種類とその具体例を紹介します。

金利リスク

金利リスクは、金利の変動によって投資の価値が変動するリスクを指します。特に債券投資においては、金利が上昇すると債券の価格は下落する傾向があります。

為替リスク

為替リスクとは、外国の資産に投資する際に、その国の通貨の価値が変動することによって生じるリスクです。もし米国株に投資しているのなら、ドルが円に対して下落すると、その投資の価値も円換算で下がることになります。

信用リスク

信用リスクは、投資先の企業や国が経済的な困窮に見舞われ、債務の返済が困難になるリスクを指します。例えば、企業が経営不振に陥り、その結果として株価が大きく下落する、または債券の利息や元本の返済が遅れる場合などが考えられます。

流動性リスク

流動性リスクは、所定の価格で資産を売却するのが難しい、または時間がかかるリスクを指します。



代表的な資産は不動産であり、売りたいと思ったタイミングで売れなかったり、自分が希望する売却価格にならなかつたりする恐れがあるのです。

以上のリスクは、投資先や投資の方法によつて、その影響の度合いが異なります。リスクを避けることはできませんが、それを理解して適切に対応することで、より安全な投資が可能となります。

リスクにどう対応すれば良いのか？

投資を始める際、最も重要なのは自身のリスク許容度を正確に把握することです。

リスク許容度とは、投資による損失に対してどれだけの耐性があるか、どれだけのリスクを取れるのかを示す指標です。

人によってリスクに対する耐性は異なるので、10000円の含み損が発生しただけで慌てる方もいれば、10万円の損失が確定してもショックを受けない方もいます。

そのため自分のリスク許容度を把握し、それを基に投資先や投資手法を選ぶことが重要となります。

リスクを低減するために最も効果的な方法が「**分散投資**」です。分散投資とは、資産を



さまざまな投資先に分散させることで、一部の投資先での損失が全体のパフォーマンスに大きな影響を与えないようにする投資法です。

例えば、100万円を持っている投資家が、全額を1つの企業の株に投資したとします。もし、その企業が経営破綻して株価が暴落すれば、投資家は大きな損失を被ることになり、資産は大幅に減ってしまうでしょう。

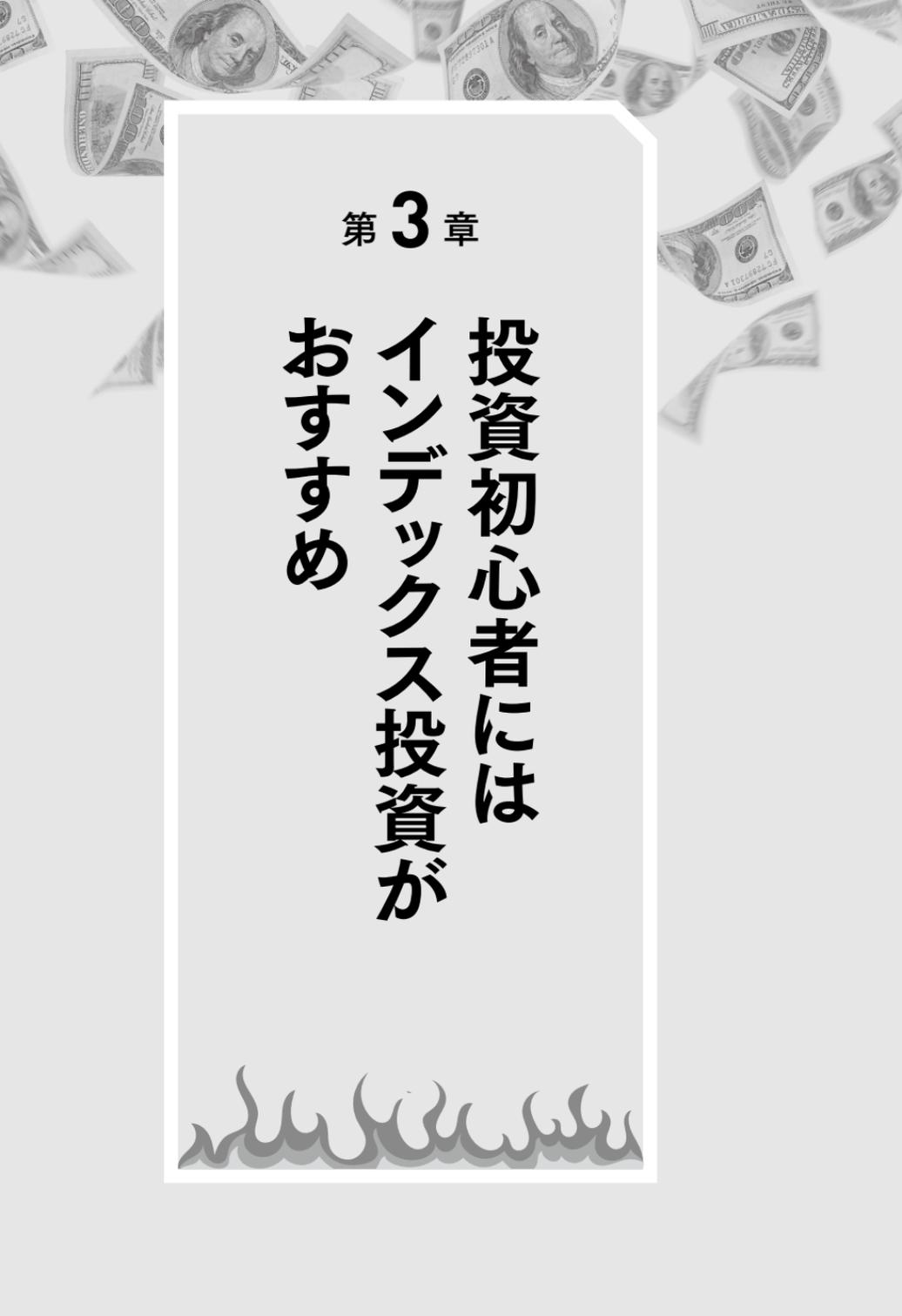
しかし、同じ100万円を10の異なる企業の株に均等に分散投資した場合、1つの企業が経営破綻しても、全体の10%の損失にとどまります。

この分散投資の重要性については、次の章で詳しくお伝えします。

投資のリスクを軽減させつつリターンを狙いたい初心者の方におすすめたのが、指数に連動する銘柄に投資していく「**インデックス投資**」です。この手法なら、個別銘柄を1つずつ選ぶ手間が省け、幅広い銘柄に自動的に分散投資ができます。

私自身も、会社員として忙しい日々を送る中で、インデックス投資の手軽さと効率性に助けられながら、32歳でFIREを達成できました。この経験を基に、多くの方にインデックス投資の魅力をお伝えしたいと思っております。

次の章では、インデックス投資の具体的な方法やメリットについて詳しく解説します。本書を手に行っているあなたも、投資を通じて経済的自由を手に入れ、ハッピーな生活を送りましょう！



第 3 章

投資初心者には
インデックス投資が
おすすめ



インデックス投資とは？

第2章では投資の基礎、特に投資と投機の違いや、リスクとリターンの関係性について学びました。

本章では、ここまでで何度か登場してきた「インデックス投資」や「インデックスファンド」に焦点を当て、その仕組みや安全性について詳しく紹介します。

また、投資の三大原則である長期・分散・積立についても触れ、その中でも「インデックスファンドでの投信（投資信託）積立」が長期の資産運用に最適である理由を説明します。人気のインデックスファンドもピックアップしてしますので、投資初心者の方はぜひ参考に見てみてください。



そもそもインデックスファンドとは、特定の株価指数などをベンチマークにして、その指数に従って値動きすることを目指す投資信託です。具体的には、日経平均株価やS&P 500などの株価指数を基準に、それに価格が連動することを目指すファンドです。

「ファンド」というのは、「さまざまなところからお金を集め、どこかに投資する仕組み」を言います。例えば100人の投資家から1万円ずつ集めて、合計で100万円になったとしましょう。この100万円を使って、株式市場や債券市場などに投資できるのがファンドです。

そして**インデックス投資とは、インデックスファンドに投資してリターンを得る投資手法**です。

多くの方が株式投資と聞くと、個別の企業の株を購入するイメージを持つかもしれませんが。しかし、個別株を購入する際はその企業の財務状況や業績、将来の見通しを正確に把

握しなければならぬため、多くの時間と労力がかかります。

特に、企業の財務情報を詳しく分析するファンダメンタルズ分析は、専門的な知識と経験が求められます。そして市場の動向を予測するためには、経済のニュースや指標を日々チェックする必要があります。

専門の投資家ならまだしも、別の仕事をしながらFIREを目指す多くの方にとっては、こうした分析を要する投資手法を続けていくのは現実的ではありません。

インデックス投資は、この問題を解決する効果的な手法として注目されています。特定の株価指数の動きを追う形で資産を運用するため、個別の企業の動向や市場の短期的な変動に左右されることなく、安定したリターンを目指せます。



投資の基本は長期・分散・積立

ここまでインデックス投資をおすすめする理由について紹介してきました。ここからは投資の基本である長期・分散・積立の考え方について解説していきます。この基本を確認すると、インデックス投資がFIREを達成するために有用な手法であると、より深く理解できるでしょう。

投資の基本その1「長期」

まず、投資における基本の1つとして「**長期で投資すること**」が挙げられます。これは、一度投資したら短期的な市場の変動に一喜一憂せず、長期にわたってその資産を保有し続

けるという考え方です。この長期投資の背景には、2つの理由があります。

1つ目の理由は、**再投資で生まれる複利効果を狙うため**です。

第2章でも少し触れましたが、複利効果とは、投資から得られる利益を再投資することで、その利益がさらに新たな利益を生むというものです。

具体的には、ある年に投資から10%のリターンを得た場合、その利益を再投資すると翌年は元本+前年の利益の合計額からさらにリターンを得られます。

複利効果は、長期にわたって投資を続けられるほど増大していくため、長期投資が推奨される大きな要因となっています。

2つ目の理由は、**短期投資は値動きが読みづらく、ハイリスクであるため**。

短期間での株価の動きは、多くの外部要因や市場参加者の心理に影響されやすく、予測が難しいものとなっています。



例えば、突発的な経済ニュースや政治的な出来事などは、短期的な株価の変動に大きな影響を与える可能性があります。

他にも他国のテロや自然災害などによって価格が影響するケースもありますが、そのような事態を想定するのはほぼ不可能でしょう。

たまたま相場が大きく動くタイミングで売買ができたとしても、予想以上の大きな値動きをするケースもあるので、リスクが高めです。

一方、長期にわたって投資を行っていると、短期的な変動の影響を受けにくくなるため、より安定したリターンを期待できます。

投資の基本その2「分散」

投資の基本の中で、「分散」という言葉を耳にする機会が多いでしょう。これは、資産を1つの投資先に集中させるのではなく、多くの投資先に広く浅く分配するという考え方

です。

具体的には、異なる業種や国、資産に投資することで、仮に一部の投資先が損失を出した場合でも、他の投資先がプラスになれば、全体のリスクを軽減できます。

こうした全体のリスクヘッジになるため、投資対象を分散させることが重要です。

第2章の終盤でも解説した通り、投資先を分散させれば、一部の投資先が不調の場合でも全体のパフォーマンスを安定させることができるのです。

投資の世界には「**卵は1つのカゴに盛るな**」という格言があります。どういう意味かというと、例えば30個の卵を1つのカゴに盛った状態だと、そのカゴを落とした時にたくさん卵が割れてしまう恐れがありますよね。ですが6つのカゴを用意して、それぞれのカゴに5個ずつ卵を分ければ、カゴを1つ落としても割れる卵の量は限られますので、より多くの卵を安全に運べるようになるのです。



投資でも同じことが言えます。投資先を分ければリスクヘッジになるので、分散は重要な考え方です。

もし分散させずに、地域・業種・時間を集中させてしまえば、価格が下がった時のリスクが大きくなります。

もし日本株だけに投資していれば、日本の経済が停滞した時に得られるリターンは限定的になりますし、輸出企業だけに投資していれば、円高になった時の利益は少なくなってしまう恐れがあるのです。

【「卵は1つのカゴに盛るな」とは？】

一度に運ぼうとすると



落として全部割れてしまう可能性も



何個かに分ければ



1つ落としても残りは安全!



出典：大同生命 | 分散投資

また、一度に大量の資金を投入するのではなく、時間を分散して少しずつ投資することも重要です。

仮に手元に100万円の資産があつて、特定の株式に対して一度に全額を投資したとしましょう。投資した後に株式が値上がりすれば大きなリターンを得られますが、必ずしも上昇するとは限らないですよ。投資した翌月に10%値下がりしてしまえば、マイナス10万円もの含み損を抱えてしまいます。

それに対して、100万円の資産を5万円ずつに分け、20カ月かけて投資していったとすれば、5万円を投資した翌月に10%値下がりしたとしても、含み損は5000円で済むのです。

以上のように投資先だけでなく、地域・業種・時間を分散させることはリスクの低減につながるため、重要な考え方です。



投資の基本その3「積立」

「積立」とは、毎月一定額を投資することです。積立投資をする際は「ドルコスト平均法」を活用すれば、購入時期を分散させ、価格の変動リスクを抑えられます。

ドルコスト平均法とは、一定の期間ごとに一定額の投資を行う方法です。この方法を実践し、毎月定額を積立投資していけば、価格が高い時は少ない量しか購入できず、逆に価格が安い時は多くの量を購入できます。

ドルコスト平均法の強みは、高値での購入を避けられるため、全体として平均購入単価を抑えられる点です。

例えばあなたが毎月1万円を投資信託の積立投資に使うことにしたとして、4カ月間の株価の変動とあなたの購入状況は次の通りであつたとしましょう。

- ・ 1カ月目…株価が1000円の時、1万円です10株購入
- ・ 2カ月目…株価が1200円の時、1万円です8.3株購入
- ・ 3カ月目…株価が800円の時、1万円です12.5株購入
- ・ 4カ月目…株価が1100円の時、1万円です9.1株購入

この4カ月間で、あなたは合計で約40株を3万9970円で購入しました。平均購入単価は、 $3万9970円 \div 40株 = 999.25円$ となります。

この期間の単純な平均株価は、 $(1000 + 1200 + 800 + 1100) \div 4 = 1025円$ ですが、ドルコスト平均法により、あなたの平均購入単価は1025円よりも低い、999.25円になりましたね。

このように積立で投資をしていけば、高値での購入を避け、全体としての購入単価を下げられるので、価格変動リスクを抑えられるのです。



他にも積立には、**精神的な安定感を得られる強み**もあります。

FIREを目的とした投資において、精神的な安定は重要です。市場の変動に一喜一憂せず計画的に投資を続けることで、長期的な視点での資産形成を目標にできます。積立投資は、その計画的な投資方法として、多くの投資家に推奨されています。

長期資産運用をするなら

「インデックスファンドで投信積立」がおすすめ

ここまで、インデックス投資の魅力や投資の基本についてお伝えしてきました。その中でも、長期で資産運用を考える際に最も効率的で、なおかつリスクを分散させる方法として特におすすめしたいのが、「インデックスファンドでの投信積立」です。

投信積立とは、毎月一定額を投資信託に積み立てていくこと。インデックスファンドは市場全体の動きを反映するため、特定の銘柄のリスクを回避しつつ、市場の平均的なリターンを享受できます。

さらに、投信積立を利用することで、一定額を定期的に投資でき、長期的な視点で安定した資産形成をサポートされます。この組み合わせにより、効率のかつ安定した資産運用



が期待できません。

ここからは、投信積立に最適な人気のインデックスファンドを紹介します。後述する新NISAの「つみたて投資枠」でも投資可能な銘柄ですので、ぜひ参考にしてみてください。

eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)

三菱UFJ国際投信が提供する「eMAXIS Slimシリーズ」は、投資家にとって魅力的な選択肢となっています。特に「eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)」は、米国の主要500社を対象とした株価指数、S&P500に連動する投資成果を指す投資信託です。

eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)に投資するメリットは、**S&P500に連動している点**です。

米国は世界最大の経済大国であり、多くの革新的な企業が存在します。AppleやAmazon、Alphabetなど、私たちの生活に欠かせない企業も多数含まれてお

り、eMAXIS Slim 米国株式(S & P 500)を通じて、これらの企業の成長利益を享受できるのです。

他にも**長期運用に最適な低コストで運用されている**というメリットもあります。

三菱UFJ国際投信はeMAXIS Slimシリーズで、業界最低水準の運用コストを目指しています。低コストでの運用は、長期的な資産形成において大きなメリットとなります。運用コストが1%低くなるだけでも、10年、20年という長期スパンで考えると運用結果に大きな差が生まれるためです。

eMAXIS Slim 米国株式(S & P 500)についてももう少し詳しく知るために、ファンドのレポートから純資産総額の推移と騰落率、そして組入銘柄を見てみましょう。

純資産総額とは、投資信託が保有する資産の合計から負債を引いた金額を指します。純資産額が多いほど、ファンドが大きく安定しています。

図を見ると、右肩上がり(右肩上がり)で純資産総額が増えていることが分かり、ファンドは安定した



【基準価格および純資産総額の推移】



出典：三菱 UFJ 国際投信 | eMAXIS Slim 米国株式 (S&P500)
月次レポート 2023 年 8 月 31 日

成長を示しています。

続いて騰落率ですが、これはある期間における価格の変動率を示す指標です。具体的には、前日や前期と比較しての価格の上昇率や下落率をパーセンテージで表したものです。

下の図を見ると、過去1カ月、3カ月、6カ月、1年、そして3年間とリターンを上げ続けているのが分かります。

【騰落率】

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	2.3%	12.7%	22.4%	21.1%	85.6%	135.2%
ベンチマーク	2.3%	12.6%	22.3%	20.9%	84.6%	133.2%

出典：三菱 UFJ 国際投信 | eMAXIS Slim 米国株式 (S&P500)
月次レポート 2023 年 8 月 31 日

組入銘柄は、そのファンドの投資先です。
 上位10銘柄を確認すると、米国の時価総額のトップに入る企業が並んでいます。なお、この後に紹介していくファンドも組入銘柄やランキング、構成比率に大きな違いはありません。

【組入上位 10 銘柄】

銘柄	比率
Apple	7.2%
Microsoft	6.3%
NVIDIA	3.2%
Amazon	3.1%
Alphabet inc-cl- A	2.1%
Alphabet inc-cl- C	1.8%
Tesla	1.8%
Meta	1.7%
Berkshire Hathaway	1.7%
UnitedHealth	1.2%

出典：三菱 UFJ 国際投信 | eMAXIS Slim 米国株式 (S&P500)
 月次レポート 2023 年 8 月 31 日



SBI・V・S&P500インデックス・ファンド

「SBI・V・S&P500インデックス・ファンド(愛称:SBI・V・S&P500)」も、S&P500指数(円換算ベース)に連動する投資成果を目指す投資信託です。

また、こちらのファンドでは、Vanguard社のETF「バンガード・S&P500ETF」を実質的な主要投資対象としています。

ETFというのは「上場投資信託」のことで、こちらについては後述します。

Vanguard社は、インデックスファンドのパイオニアとして知られています。

1975年に設立されて以来、低コストでの運用が支持され多くの投資家から信頼を得ているのです。インデックスファンドの世界シェアナンバーワンの実績と信頼性は、SBI・V・S&P500インデックス・ファンドの運用にも大きく寄与しています。

SBI・V・S&P500インデックス・ファンドで資産形成するメリットは、S&P500に連動していることや低コストのファンドであること、そしてNISAで投資可能

であることなど。

同じ米国インデックスファンドであるeMAXIS Slim米国株式(S&P500)とは、信託報酬(投資信託を保有している間、支払い続けなければならない費用)やリターンの面などで類似点が多く、大きな違いは見られません。

しかし、純資産総額の面で比較すると、eMAXIS Slim米国株式(S&P500)の方がSBI・V・S&P500インデックス・ファンドよりも規模が大きいたことが確認できます。

とはいえ、両ファンドともに十分な規模を持つているため、どちらのファンドを選択しても、投資家が大きな違いを感じることは少ないでしょう。

また、ファンドのレポートから純資産総額の推移や騰落率を見て

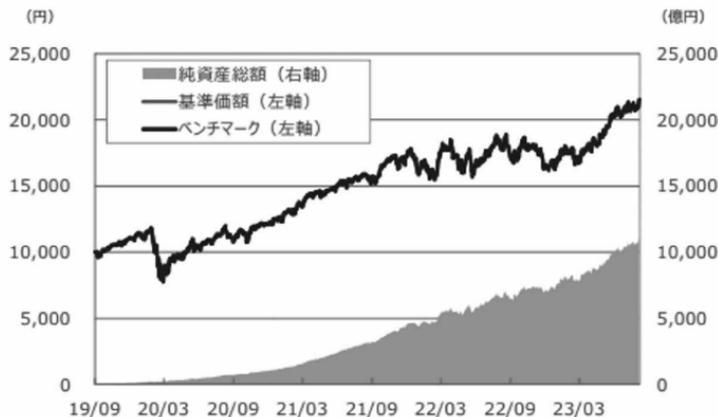
【組入上位 10 銘柄】

投資信託名	純資産総額
eMAXIS Slim 米国株式 (S&P 500)	2兆5939億円
SBI・V・S&P 500 インデックス・ファンド	1兆1007億円

※ 2023年8月31日時点



【基準価格および純資産総額の推移】



出典：三菱UFJ国際投信 | SBI・V・S & P500 インデックス・ファンド
月次レポート 2023年8月31日

みると、こちらにもeMAXIS Slim 米国株式 (S & P 500) と大きな違いはありません。

純資産総額のチャートは、2020年の初めに一時的に下落している点や、長期的に見て右肩上がりである点などは同じです。

騰落率もそれぞれの期間でのパーセンテージに大きな差は見られません。

【騰落率】

	設定来	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年
ファンド	115.31%	2.33%	12.59%	22.27%	21.00%	84.93%	-
ベンチマーク	115.12%	2.30%	12.61%	22.29%	20.89%	84.58%	-
差	0.19%	0.03%	-0.02%	-0.02%	0.11%	0.35%	-

出典：三菱UFJ国際投信 | SBI・V・S & P500 インデックス・ファンド
月次レポート 2023年8月31日

eMAXIS Slim 先進国株式インデックス

eMAXIS Slim 先進国株式インデックスは、日本を除く先進国の株式市場に投資することを目的としたインデックス型の投資信託です。このファンドは、MSCIコクサイ・インデックスに連動する投資成果を目標としています。

MSCIコクサイ・インデックスは、米国の金融情報サービス会社であるMSCI社が提供する株価指数の1つです。この指数は、日本を除く先進国の株式市場をカバーしており、日本の投資家が外国の先進国株式に投資する際のベンチマークとして広く利用されています。

eMAXIS Slim 先進国株式インデックスの特徴は、米国をメインに20カ国以上の先進国に分散投資できる点です。S&P500のインデックスファンドが米国の株式に限られていたのと比べると、こちらのファンドは投資先がより分散していると判断できます。



【基準価格および純資産総額の推移】



出典：三菱UFJ国際投信 | eMAXIS Slim 先進国株式インデックス
月次レポート 2023年8月31日

ファンドのレポートで純資産総額の推移と騰落率を見てみましょう。純資産総額は右肩上がりで増えており、これまで見てきたファンドとほぼ同じ動きをしていますね。騰落率はS&P500のインデックスファンドよりは劣るものの、eMAXIS Slim 全世界株式（オール・カントリー）より数値はやや高めです。

「日本の将来には期待できないから、日本以外の会社の株を買いた

【騰落率】

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.3%	10.9%	18.3%	19.8%	71.2%	102.6%
ベンチマーク	1.3%	10.8%	18.2%	19.8%	71.0%	102.2%

出典：三菱UFJ国際投信 | eMAXIS Slim 先進国株式インデックス
月次レポート 2023年8月31日

い」という方におすすめと言えます。

ここまで投信積立に適したインデックスファンドを3つご紹介してきました。いずれも成長性の高さに加えて、コストの低さや分散性の高さといったメリットから、セルフ年金作りの手段として適しています。

実際、私の運営するマネースクールでも、米国株インデックスファンドを活用してFIREを達成している受講生が増えています。特にS&P500や米国ETFは、その堅調なパフォーマンスと安定したリターンが期待できるため、FIREを目的とするセルフ年金作りの主要な選択肢としておすすめしています。

第4章ではS&P500の魅力の他に、米国ETFについても詳しく紹介していきますので、あなた自身のセルフ年金作りの一助としてください。

第4章

FIREを目指すなら
S&P500か**VTI**
がおすすめ！



投資信託とETFの違い

前章では、インデックス投資の基本や人気のインデックスファンドについてお話しました。投資初心者がリスクを回避しつつ、リターンを狙うことができる銘柄に絞って解説しましたので、これから投資を始める方は、ぜひ参考にしてみてください。

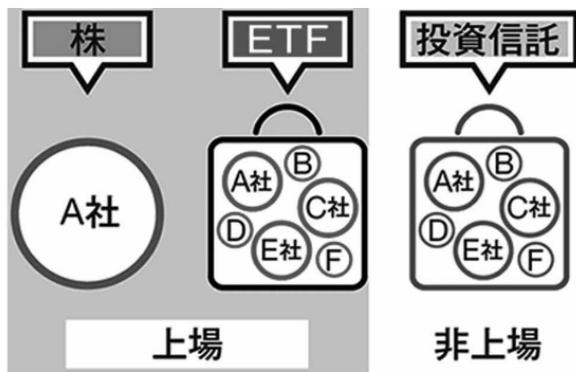
本章ではFIREを目指す方におすすめしたい銘柄について解説していきます。

FIRE達成に活用できるのは、前章でもお伝えした**S&P500に連動する銘柄や、VTI(米国ETF)**が挙げられます。それぞれのメリットやデメリット、魅力、どの手法を利用すれば一番利益を狙いやすいのかについてまとめました。

特に投資信託とETFの違いは重要です。こちらもそれぞれメリット・デメリットがあり、どちらが良いのかは人によって異なります。



【ETFと投資信託の違い】



出典：NEXT FUNDS | ETFとは？ETF（上場投資信託）のしくみやメリット・デメリット、投資信託との違いを解説

FIRE達成のためにも、初めに投資信託とETFの違いを押さえておきましょう。

そもそも投資信託とは複数の投資家から資金を集めて、その資金をもとに資産運用する金融商品です。そしてETFは「上場投資信託」のことであり、投資信託の一種です。

大きな違いの1つは、上場しているかないかです。ETFは「上場」投資信託であり、証券会社だけで取引されます。他方で投資信託は証券会社だけではなく、銀行や郵便局でも取引可能です。

もう1つの違いは取引方法です。ETFは株式のように取引所に上場しているため、取引時間中

ならば希望価格になったタイミングで購入できます。一方で投資信託は、1日1回「基準価額」が決められ、その価格での売買となります。

また、ETFはリアルタイムでの価格変動がありますが、投資信託は1日での価格が固定されるため、価格の変動がないという特徴があります。

さらに投資信託には、**アクティブ型とインデックス型**の2種類があります。アクティブ型は、ファンドマネージャーが市場の動向や企業の業績などを分析して、最もリターンが期待できると判断した銘柄を選び、資産を運用する形式です。

それに対してインデックス型は、前章まででお伝えしてきたように特定の株価指数などの動きを追う形で資産を運用するため、アクティブ型に比べて運用コストが低く、安定したリターンが期待できます。

本書では主にインデックス型の銘柄だけを解説しています。



投資信託でFIREを目指したい方に おすすめの銘柄

投資信託とETFの違いについて説明したところで、それぞれおすすめの銘柄をご紹介します。

S & P 5 0 0 に連動する投資信託の中で、代表的な銘柄は次の通りです。

1. eMAXIS Slim 米国株式(S & P 5 0 0)
2. SBI・V・S & P 5 0 0 インデックス・ファンド
3. 楽天・全米株式インデックス・ファンド

eMAXIS Slim 米国株式(S & P 500)とSBI・V・S & P 500インデックス・ファンドは前章でも解説したファンドですね。その名の通り、S & P 500指数に連動する投資信託です。

いずれも低い実質コストが特徴です。実質コストとは、信託報酬に加えて、監査費用や売買手数料などのコストを含めた総費用のことを指します。

楽天・全米株式インデックス・ファンドは、約4000銘柄にわたる米国の株式市場全体に投資できるファンドです。これにより大型株だけでなく、中型株や小型株への投資も可能となっています。

一方でeMAXIS Slim 米国株式(S & P 500)は大型株のみ、約500銘柄を対象としています。したがって、より幅広い範囲の米国株に投資したいと考える投資家にとっては、楽天・全米株式インデックス・ファンドが適していると言えるでしょう。



投資信託のメリット・デメリット

投資初心者にとって、S & P 5 0 0 に連動する投資信託は非常に魅力的な選択肢となりますが、そのメリットとデメリットをしっかりと理解しておくことが、投資の成功を導く鍵となります。この項では、S & P 5 0 0 に連動する投資信託の利点と欠点について詳しく解説します。

まず1つ目のメリットは**自動積立機能がある点**です。

多くの投資信託は自動積立機能を提供しており、毎月一定の金額を自動的に投資できます。これを利用することで、市場の変動や自身の感情に左右されず、安定した投資を続けられます。

特に、長期間での投資を考えている初心者にとってこの機能は有効です。

メリットの2つ目は、**決まった金額で投資が可能**である点。「毎月1万円を積み立てていく」といったように自分で金額を決めることができます。

そのため先述したドルコスト平均法を利用して、計画的に投資を行えます。また、市場の変動によるリスクを分散できるため、安定したリターンが期待できるでしょう。

そして3つ目のメリットは、**売買手数料が無料**である点です。

多くのインデックス型は、売買手数料が無料です。特に新NISAの成長投資枠の対象となつている投資信託は、売買手数料がすべて無料となつていますので、長期間の投資を行う際に発生するコストを大幅に削減できます。

ただし投資信託を利用する際は、**信託報酬が高めである**というデメリットに注意してください。たしかに基本的にインデックス型は低コストで、eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)などは2023年9月時点で信託報酬が0・09372%なのですが、



国内・米国ETFに比べると、やや高い傾向にあります。

また、**リアルタイムの売買ができない**というデメリットもあります。投資信託は買い注文を出してから実際に約定するまでに、一時的なタイムラグが生じます。このため、狙った価格帯で購入するのが難しいケースもあるのです。

これらのデメリットもありますが、S&P500に連動する投資信託は、長期FIREを目指す初心者にとっては有用な選択肢と言えるでしょう。

ETFでFIREを目指したい方におすすめの銘柄

続いてS&P500に連動したETFの中で、おすすめの銘柄を見ていきます。ETFは国内銘柄と米国の銘柄に分けて解説します。

まず国内ETFですが、これは日本の金融商品取引所に上場しているETFのことを指します。近年はさまざまな種類の国内ETFが登場しており、例えば高配当の銘柄に特化したものや、価格の変動が少ないものなど、投資家のニーズに合わせた多様な選択肢が提供されています。

特にS&P500指数に連動する国内ETFは、米国の株式市場の動きを反映する投資商品として人気があります。その中でも、次に挙げる国内ETFは、**米国での源泉徴収税**



における二重課税問題に対応している点が人気です。

- iシェアーズS&P500米国株ETF
- MAXIS米国株式(S&P500)上場投信
- (NEXT FUNDS) S&P500(H無)連動型上場投信

国内ETFは、日本の投資家にとってアクセスしやすい投資商品として注目されています。特に、S&P500指数に連動する国内ETFは、米国の経済動向を捉える上で有効なツールとなります。各ETFの特徴を理解し、自身の投資目的やリスク許容度に合わせて選択することは、成功を引き寄せる鍵となるでしょう。

続いて米国ETFは、米国の証券取引所に上場しているETFを指します。主に、NYダウやS&P500といった著名な株価指数に連動するものが多く取り扱われています。

しかしこれらの主流なETF以外にも、債券を対象としたETFや、特定の業界・セクターに焦点を当てたセクターETF、新興のテーマやトレンドに基づくテーマ型ETFなど、多岐にわたる種類のETFが存在しているのです。さらに、レバレッジ型やインバース型といった、特定の戦略を取り入れたETFも人気があります。

ここではS&P500に連動する米国ETFの中でも、特に代表的なものをいくつか挙げます。

● SPDR S&P500 ETF

● バンガードS&P・500 ETF

● iシェアーズ・コアS&P500 ETF

いずれもS&P500指数に連動することを目的としたETFであり、米国の大手企業



の株価の動きを捉えることが可能です。

ただし、SPDR S&P500 ETFは総経費率が0.0945%と他の銘柄に比べるとやや高めである点には注意が必要です。

総経費率とは、ETFの運用にかかるコストのことを指します。信託報酬を含めたさまざまな費用負担がどれほどであるかを示しており、数値が高いほど投資家の負担が大きくなります。

米国ETFは、多様な投資戦略や目的に応じて、幅広い選択肢を提供しています。特にSPDR S&P500 ETF、バンガードS&P・500 ETF、iシェアーズ・コアS&P500 ETFといったS&P500に連動するETFは、米国の経済動向を捉える上で有効なツールとなります。

【ETFの経費率比較】

ETF	総経費率
SPDR S&P 500 ETF	0.09%
バンガードS&P・500 ETF	0.03%
iシェアーズ・コア S&P 500 ETF	0.03%

※ 2023年9月時点

ETFのメリット・デメリット

S & P 500 に連動するETFは、その利便性とコスト面において多くの特徴を持っています。ここでは、S & P 500 に連動したETFを利用する際の、主なメリットとデメリットについて詳しく解説します。

まずメリットの1つ目は、**リアルタイム取引が可能**である点です。市場の動きをリアルタイムでキャッチし、希望の購入額で取引することが容易になります。

例えば市場が急落した際にも、そのタイミングで購入ができ、安値で購入するチャンスを逃すことなく投資を行えます。

2つ目のメリットは、**米国ETFの信託報酬が安い**点です。

信託報酬は投資家がファンドに支払う手数料なので、これが低ければ、長期的な運用に



おいてもコストが抑えられます。特に長期間の運用を考える際は、この差が結果的に大きな影響を及ぼす場合があります。

そして3つ目は**国内ETFは売買手数料が無料**である点です。

国内の証券会社では、ETFの売買手数料が無料となるサービスを提供するケースが増えてきました。特に、SBI証券や楽天証券などの大手ネット証券会社では、多くのETFを**手数料無料で取引できるプラン**を提供しています。これにより、頻繁に取引を行う投資家でも、手数料のコストを気にせず取引が行えます。

その反面でETFにはデメリットも存在します。デメリットの1つ目は**株単位での購入**しかできない点です。

ETFの自動積立購入の設定ができる証券会社は少なく(マネックスアドバイザーなど利用可能)、基本的に手動での購入が主となります。

例えば、投資信託のように毎月5万円の積立を希望しても、ETFの価格が1万5145円の場合、端数が出てしまい決まった額の投資が難しくなります。

投資対象によつては買い付けに最低限必要な金額が決まっており、少額での積立が難しいケースもあります。

2つ目のデメリットは**国内ETFは信託報酬が高い点**。

S & P 500に連動する国内のETFは、信託報酬が0・095%などと比較的低いものの、バンガードS & P・500ETFのような米国ETFの0・03%と比べると高く設定されています。長期間の運用を考える場合、この差は大きなコストとなり得ます。

3つ目は**米国ETFは売却手数料がかかる点**です。

米国ETFの手数料は、購入時は無料ですが、売却時には負担しなくてはなりません。具体的な金額は、約定代金が2・22ドル以下の場合には手数料が無料、2・22ドル超



4444・45ドル未満の場合は約定代金の0.495%、そして4444・45ドル以上の場合には22ドルとなります。

この手数料は、取引の頻度や売却のタイミングによつては、大きなコストになるでしょう。

このように、S & P 5 0 0 に連動する投資信託とETFそれぞれに、メリットとデメリットが存在します。投資信託は自動積立機能があり、感情に左右されることなく投資ができる反面、信託報酬が高いというデメリットがあります。

一方ETFは、リアルタイム取引が可能で希望の購入額での投資がしやすいというメリットがありますが、株単位での購入しかできないというデメリットもあります。

V T I (米 国 E T F) と は

ここまでは S & P 5 0 0 に連動する投資信託や E T F について触れてきました。次からは米 国 E T F の中でも、特に注目されている V T I の概要とそのメリット・デメリットについて詳しく解説していきます。

V T I は「バンガード・トータル・ストック・マーケット・E T F」の略称で、米 国 の全体的な株式市場を反映する E T F として知られています。

「C R S P U S トータル・マーケット・インデックス」という指数に連動することを目指しており、この指数には米 国 で取引されている約 4 0 0 0 銘柄の株式が含まれています。これにより、V T I を通じて米 国 の株式市場全体の動きを 1 つの E T F でキャッチできます。



VTIの代表的な銘柄は次の通りです。

● 楽天・全米株式インデックス・ファンド

● SBI・V・全米株式インデックス・ファンド

これらのファンドは米国の株式市場を反映するものとして人気があり、それぞれに特徴を持っています。

まず楽天・全米株式インデックス・ファンドですが、このファンドは、VTIとして米国の株式市場を幅広くカバーしています。

特筆すべき点は**レンディング(有価証券の貸付取引)**の実施です。レンディングとは、自社が保有する株式などを証券会社に一時的に貸し出し、その代わりに担保金を受け取ることを言います。この取引で、貸し出しを行った側は借り手から「品貸料」という料金をもらいます。

次にSBI・V・全米株式インデックス・ファンドです。このファンドの特徴は、**楽天・全米株式インデックス・ファンドに比べて信託報酬が低い**点です。長期的な投資を考えると、場合、信託報酬の低さは大きなアドバンテージとなります。そのため、コストを重視する投資家には特におすすめです。

VTIも分散投資による効果を得られる点と、コストが低い点が強みです。米国の大型株だけでなく、中型株、小型株まで幅広くカバーしているため、分散投資の効果が高まっているのです。

ですがVTIは米国の資産に投資するため、為替の変動によりリスクが発生します。投資した時よりもドルの価値が下がっていれば、その分だけ損失を被ることがある点に注意してください。

また、一部の小型株は取引量が少ないため、売買の際に流動性の問題が生じる可能性もあります。



米国に集中投資するのが心配な方は 全世界株式がおすすめ!

米国には世界の経済に影響を及ぼすほどの企業が数多くあり、AmazonやAppleを始めとした米国企業は時価総額ランキングの上位を占めています。

ですが「米国だけに集中して投資するのは心配」「もっと広い範囲で分散投資したい」と考える方もいるのではないでしょうか。そうした投資をしたい方には、世界中の会社株に投資できるインデックスファンド「eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カン
トリー)」がおすすめです。

eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)は、三菱UFJ国際投信が提

供するインデックスファンドの1つで、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックスに連動して運用されます。この指数は、世界の先進国と新興国の株式市場をカバーしており、約20カ国以上に投資できます。

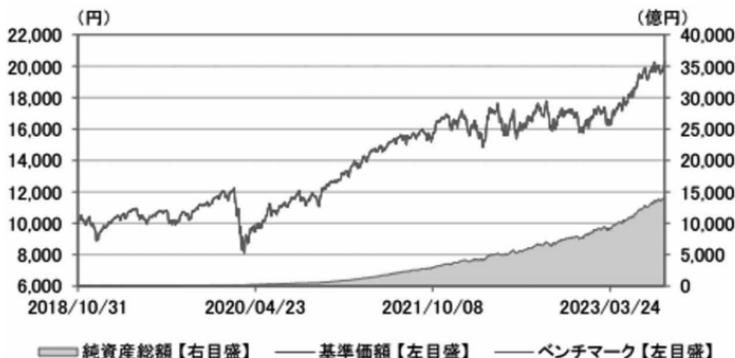
このファンドの構成銘柄は3000銘柄以上で、他のSBI証券や楽天証券の全世界株式型商品がベンチマークしている指数に比べて銘柄数は少なくリターンもやや劣りますが、eMAXIS Slim 全世界株式（オール・カンントリー）は、信託報酬が安く純資産総額が圧倒的に大きいので、一番安定しているのではないかと私は考えています。

どのインデックスファンドに投資するにしても、自分が今一体何に投資しているのか、中身を調べた上で判断するのが大切です。

ファンドのレポートから純資産総額の推移と騰落率を見てみましょう。



【基準価格および純資産総額の推移】



出典：三菱UFJ国際投信 | eMAXIS Slim 全世界株式（オール・カントリー）
月次レポート 2023年8月31日

純資産総額は第3章で解説した eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）やSBI・V・S&P500インデックス・ファンドと大きな違いはありませんが、騰落率は低めであることが分かります。

なお、こちらの投資先は全世界を対象としていますが、組入銘柄は2つのファンドと同じく、米国の時価総額ランキングのトップに入る企業が並んでいます。そのため、eMAXIS Slim 全世界

【騰落率】

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.3%	10.9%	18.3%	19.8%	71.2%	102.6%
ベンチマーク	1.3%	10.8%	18.2%	19.8%	71.0%	102.2%

出典：三菱UFJ国際投信 | eMAXIS Slim 全世界株式（オール・カントリー）
月次レポート 2023年8月31日

界株式（オール・カントリ）とeMAXIS Slim 米国株式（S&P500）の基準
価額の動きは似た動きになっていますが、全世界の株式を買うことができるので、より分
散して投資をしたい方はこちらのファンドを選んでも良いでしょう。



投資信託とETF、どちらにすれば良い？

ここまで投資信託とETFの違いについて述べてきましたが、「どつちに投資すれば良いのか分からない」と感じる方は多いのではないのでしょうか。

そのような方のために、どちらに投資すれば良いのかを判断する参考になる質問を用意しました。

次の質問に答えながら、自分に向いている投資手法を検討してみてください。

質問1. 分配金を受け取りたいですか？

答えがイエスの場合は、ETFがおすすめです。一方、運用益を再投資して資産を増やしていきたい場合は、投資信託が適しています。1000万円などのまとまったお金があ

る方以外は、再投資して効率良く資産形成ができる投資信託が良いでしょう。

ETFには再投資型の銘柄はありません。すでに1000万円以上の資産を保有している方が分配金を得るためであれば、ETFを利用する価値はありますが、これからFIREを目指し長期で資産を形成していきたいという方にとっては、投資信託、とりわけインデックス型がおすすめです。分配金を受け取らずに再投資する方が、複利効果で効率的に資産を形成できるためです。

質問2. ETFにする場合、確定申告の手間は気になりますか？

ETFを選択した上で確定申告が面倒だと感じる方は、国内ETFを選ぶと良いでしょう。国内ETFで発生した分配金を受け取る時は源泉徴収されるため、自分で確定申告する必要がありません。ですので「自分で税金を納める手続きをしたくない」という方は国内ETFに投資することをおすすめします。

海外ETFで分配金を受け取る場合、日本だけではなくそのETFを取り扱っている国



でも税金がかかる例があり、これを二重課税と言います。

ですが確定申告時に手続きをすることで、この二重にかかった税の一部を控除できます。そのため確定申告に抵抗のない方は、海外ETFも選択肢に入れても良いでしょう。

以上のポイントを踏まえ、投資信託とETFのどちらを選ぶのか、自身の投資スタイルや目的に合わせて決めましょう。

結局国内ETFと米国ETF、どちらがお得なのか

多くの初心者が迷うのが「国内ETFと米国ETF、どちらに投資すれば良いのか？」という問題です。

これについて考える前に必要なことは、**損益分岐点の理解**です。損益分岐点とは、損益がプラスマイナスゼロになる金額のことです。つまり、利益が損益分岐点を超えた場合は

黒字で、下回った場合は赤字になります。国内ETFと米国ETFの損益分岐点が分かれば、期間やコスト面から自分にとってどちらが良いか理解できます。

ETFの損益分岐点は、「売却手数料」「信託報酬」「投資期間」の3つの要素で決まります。

実際に次の2つのETFを比較しつつ、損益分岐点がどこになるのかをシミュレーションしてみましょう。

・【米国ETF】

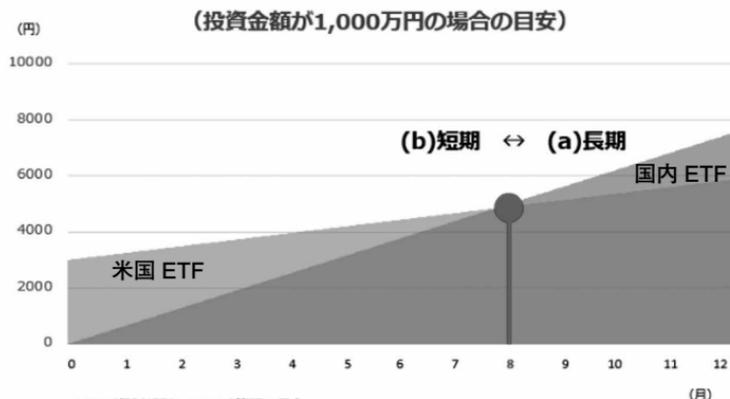
バンガードS&P・500ETF…信託報酬0.03%+売却手数料(4444.45ドル以上の場合は22ドル)

・【国内ETF】

(NEXT FUNDS)S&P500(H無)連動型上場投信…信託報酬0.077%、
売却手数料なし



【管理コストと売却コストの総コスト比較】



出典：楽天証券（トウシル） | S & P500 に投資するならどっち？

——国内上場ETFと米国上場ETF

次の図は、この2つのETFを1年間運用した場合に発生するコストを示しています。横軸が投資期間であり、縦軸が売却手数料と信託報酬の合計。投資する金額は1000万円です。

まず国内ETFですが、こちらは売却時の手数料はかからないため、信託報酬0・077%のコストが毎月発生していく形となります。

米国ETFの場合は、購入した時点で売却手数料22ドルの負担があることが確定していますので、1カ月目の時点でコストが発生します。それ以降に増えていくコストは、0・03%の信託報酬です。

国内ETFは売却手数料がないものの、信託報酬は国内ETFの方が高いので、長期的に運用すると、どこかのタイミングで国内ETFのコストが米国ETFのそれを上回りま
す。その損益分岐点を図で確認すると、8カ月目になります。

結果としてこのシミュレーションでは、8カ月未満の短期間で取引を終えるなら国内
ETFが有利であり、それ以上の長期間で運用していくなら米国ETFが有利となりまし
た。

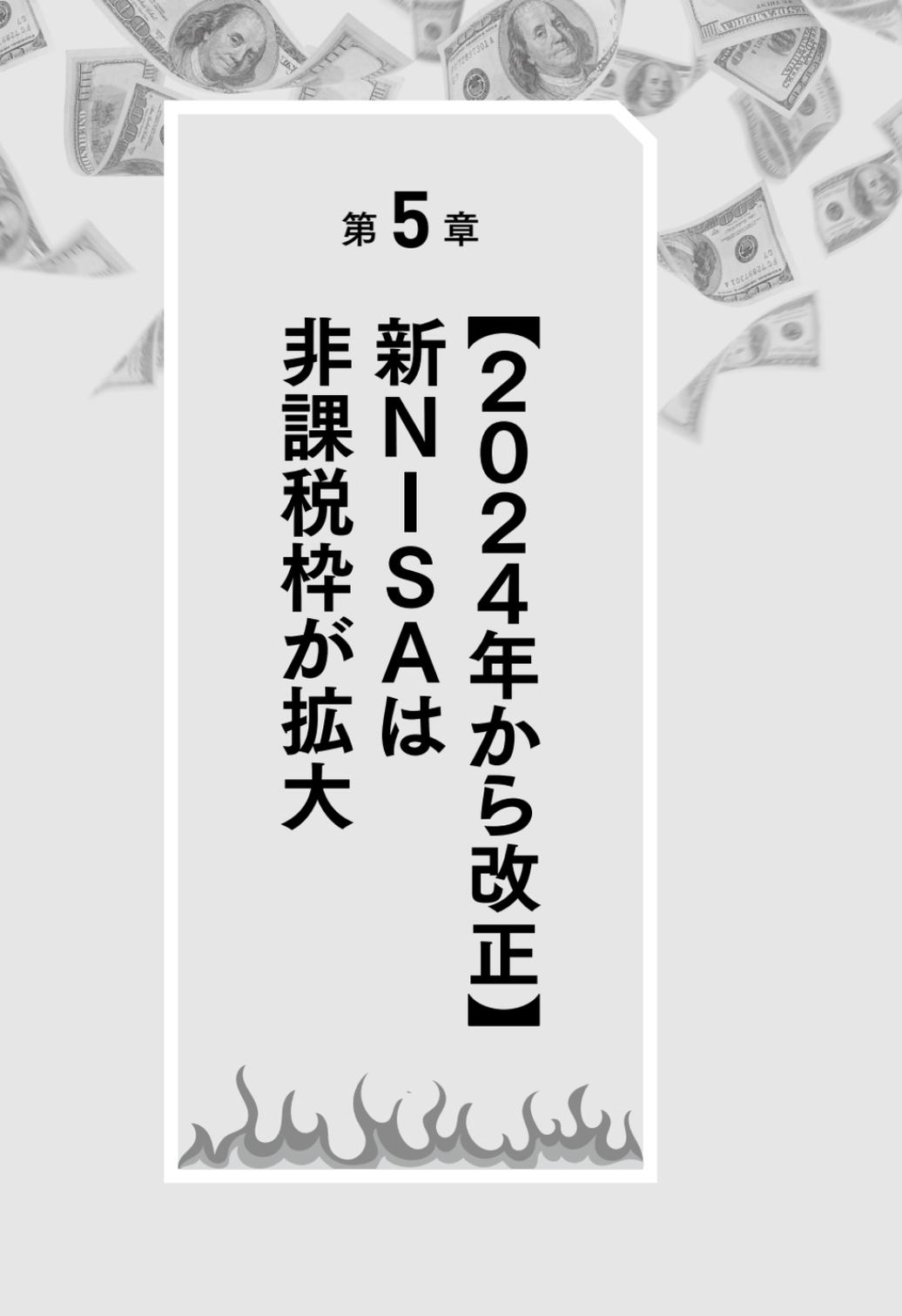
このシミュレーションを見て、「1000万円も投資資金を用意できないよ」「月に1万
円程度の少額なら米国ETFはやらない方が良いのか？」と疑問に思う方もいるかもしれ
ません。

もちろん、月1万円程度でも米国ETFへの投資は可能です。その場合でも、信託報酬
は国内ETFの方が高めですので、長期的に見ると米国ETFが低コストで運用可能です。



以上をまとめると、短期投資の場合は国内ETF、長期投資の場合は米国ETFがお得であると考えて良いでしょう。自身の投資スタイルや目的に合わせて、適切なETFを選ぶことが何よりも肝心です。

また国内ETFと米国ETFについては、YouTubeチャンネル「ライオン兄さんの米国株FIREが最強」でも、「**【完全版】S&P500は投信、国内ETF、米国ETFの〇〇を買うのが一番得をします!!!**」で解説していますので良ければ参考にしてください。



第 5 章

【2024年から改正】
新NISAは
非課税枠が拡大



NIISAとは「税負担を軽減できる制度」

前章では、投資信託とETFにおけるそれぞれのメリットやデメリット、お得度についてお伝えしました。ここからは、2024年から改正される新NIISAについて解説します。

FIRE達成を目標として長期的に運用する場合、気になるのがコスト面でしょう。特に税の負担はなるべく、削減して手元に残るお金を増やしたいところ。

そのような時に利用できるのが、日本政府が提供する「NIISA」という制度です。

NIISAは少額投資非課税制度とも呼ばれ、一言でいうと「**投資利益にかかる税負担を軽減できる制度**」です。この制度を利用することで、投資によつて得られる利益にかかる税金を、一定期間非課税にできます。



例えば、100万円の投資で10%の利益を得た場合、通常はその利益に対して31.5%の税金がかかりますが、NISAを利用すれば非課税となるため、税金がかかりません。

また、税金の節約が見込まれるため、投資に対するモチベーションが向上します。加えて、非課税期間中に得られた利益を再投資すれば、より大きな利益を追求できます。

一方で、2023年末までのNISAには、非課税期間に制限があるというデメリットがあります。

一般NISAではその期間は5年間となっており、それを過ぎれば通常の税率が適用されます。5年間の非課税期間が終われば、次の行動をしなければなりません。

1. 翌年の非課税投資枠に移管（ロールオーバー）
2. 課税口座に移管
3. 売却

さらにNISAには年間の投資額に上限が設定されており、その上限を超える投資には非課税のメリットが適用されません。2023年末までの一般NISA口座での上限は年間120万円までとなっており、それを超える場合には通常の税率が適用されます。

つまり、NISAは税金の節約や投資へのモチベーション向上など多くのメリットがあり、投資初心者にとって魅力的な制度と言えますが、一方で非課税期間の制限や投資額に上限があるなどのデメリットもあります。

しかし、**2024年から始まる「新NISA」**では、これらのデメリットが大幅に軽減されると注目されています。新NISAなら非課税期間は無制限になり、投資上限金額も大幅に上がるのです。

これからFIREを目指す方にとっては、今回の制度改正によって投資環境が良くなると言えるでしょう。



新NISAの仕組み

2023年末までのNISA（以下「旧NISA」）について説明しましたが、ここからは新NISAについて詳しく解説していきます。

新NISAを利用する上で押さえておきたい仕組みは、大きく分けて3つあります。

1つ目は**非課税投資枠が復活する仕組み**があること。

新NISAでは、一生涯の投資枠が1800万円までとなっており、投資金額が1800万円までであれば、税金の負担をすることなく何度でも売買できるのです。

例えば2025年1月に100万円を投資したとします。この時の生涯投資枠は、1800万円から投資金額100万円を差し引いて、1700万円です。

【新 NISA では非課税投資枠が復活する】



同年10月に、投資した銘柄が値上がりし、投資資金は100万円から150万円にまで増えました。含み益が発生しても、100万円の元本に変動はないため、生涯投資枠は1700万円のままです。

そこで投資した銘柄を全額売却して、50万円の利益を獲得しました。銘柄を売っても2025年の間は生涯投資枠は1700万円のままですが、翌年2026年1月には100万円の枠が復活し、投資枠は1800万円に戻ります。投資の運用益(50万円)は規定の投資枠に影響せず、売却すると当初の購入額である100万円分の生涯投資枠が復活するのです。

つまり、投資元本1800万円までなら、繰り返し非課税で取引ができるのです。ただし売却した分の投資枠は、その



翌年にならないと復活しない点に注意してください。

2つ目は、**対象・対象外の商品は旧NISAとほぼ同じ**であることです。

新NISAの対象商品は、「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の2つに分かれます。つみたて投資枠の対象商品は、長期の積立・分散投資に適し、一定条件を満たした投資信託となります。これは、旧NISAにあった「つみたてNISA」の対象商品と同様です。一方、成長投資枠の対象商品は、国内外の株式や投資信託等となります。旧NISAでいう「一般NISA」とほぼ同様ですが、新NISAでは、整理・監理銘柄や一部の投資信託等が対象外となります。

整理・監理銘柄とは、取引所の上場廃止基準に従って、廃止が決まった銘柄や、廃止になる可能性がある銘柄のことです。

そして3つ目は、**旧NISAから自動で新NISAに切り替わる**ことです。

新NISAは、旧NISAとは別で運用できます。つまり、2023年の時点で旧NISAを開始していない方は、2024年に新NISAが開始されるまで待つ必要はありません。新NISAの生涯投資枠に旧NISAの枠は含まれないため、新・旧両方のNISAを活用すれば、その分だけ非課税にできる枠が大きくなるのです。

ですから「これからNISAを始めようと考えていた」という方は、今すぐNISA口座を開設することをおすすめします。

すでにNISAを開始している方は、2024年に自動的に新NISAへ移行するため、新たに口座を開設する必要はありません。

ここまで見てきたように、新NISAは簿価残高方式による管理や対象商品の拡大など多くのメリットがあり、投資初心者にとって非常に効果的な制度となっています。また、旧NISAとの連携もスムーズに行われるため、これからの投資において新NISAは欠かせない存在となるでしょう。



新NISAの主な改正ポイントは？

新NISAの仕組みを追うとお得な制度であるとは分かりました。ここからは、今までの旧NISAと2024年から始まる新NISAが一体どう違うのかについて、さらに詳しく掘りしていきたいと思います。

主な改正ポイントは次の通りです。

1. 旧NISAの一般NISAとつみたてNISAを併用できる
2. 投資可能額が大幅にアップする
3. 非課税での保有期間が無期限になる

次の新・旧NISAの特徴をまとめた表も参考にしながら、NISAの理解を深めていただきたいと思います。

まず、新NISAの最も大きな変更点の1つは、**旧NISAの一般NISAとつみたてNISAを併用できる**ことです。

先ほど述べた通り、旧NISAで利用できた一般NISAとつみたてNISAは、新NISAでは名称が変わり、成長投資枠とつみたて投資枠となります。

これらは旧NISAでは別々の制度として運用されてきましたが、新NISAでは成長投資枠・つみたて投資枠を併用することができます。

成長投資枠は、旧NISAの一般NISAを引き継いだ投資枠です。この枠では、上場株式や投資信託、ETFなどへの投資が可能となります。

つみたて投資枠は、金融庁に届け出されている積立投資に適した投資信託に限定され、第3章と第4章で触れてきた銘柄を取引できます。

ですのでインデックス投資をしながら、成長性の高い個別株に投資することも可能にな



【旧 NISA について】

	つみたてNISA (2018年創設)	選択制	一般NISA (2014年創設)
年間投資枠	40万円		120万円
非課税保有期間	20年間		5年間
非課税保有限度額	800万円		600万円
口座開設期間	2023年まで		2023年まで
投資対象商品	長期の積立・分散投資 に適した一定の投資信託 (金融庁の基準を満たした投資信託に限定)		上場株式・投資信託等
対象年齢	18歳以上		18歳以上

【新 NISA について】

	つみたて投資枠	併用可	成長投資枠
年間投資枠	120万円		240万円
非課税保有期間(注1)	無期限化		無期限化
非課税保有限度額 (総枠) (注2)	1,800万円 ※ 簿価残高方式で管理(枠)の再利用が可能		
口座開設期間	恒久化		1,200万円(内数) 恒久化
投資対象商品	長期の積立・分散投資に適した 一定の投資信託 (現行のつみたてNISA対象商品と同様)		上場株式・投資信託等 (注3) ①整理・監視銘柄の信託期間20年未満、毎月分配型 の投資信託及びデリバティブ取引を用いた一定の 投資信託等除外
対象年齢	18歳以上		18歳以上
現行制度との関係	2023年末までに現行の一般NISA及びつみたてNISA制度において投資した 商品は、新しい制度の外枠で、現行制度における非課税措置を適用 ※ 現行制度から新しい制度へのロールオーバーは不可		

出典：金融庁 | 新しいNISA

るのです。

2つ目の大きな特徴として、**投資可能額が大幅にアップ**することが挙げられます。

旧NISAでは、一般NISAの年間投資枠は120万円、つみたてNISAは40万円まででした。それに対して新NISAでは、成長投資枠で240万円、つみたて投資枠で120万円までとなります。

成長・つみたて投資枠の両方を合わせると、年間の最大投資額は360万円。新NISAの導入によって、旧NISAの年間最大投資額の3倍にまで増加します。

さらに非課税保有限度額が増えた点も、これまでとは大きな違いです。非課税保有限度額とは、NISA口座で一生涯に投資できる枠のことであり、旧NISAでは一般NISAで600万円、つみたてNISAで800万円と定められていました。

新NISAからは、先述した通り生涯投資枠として1800万円（成長投資枠は1200万円）まで投資が可能となりました。これにより、投資家はより多くの資金を非課税で運用できるため、選択肢が大きく広がります。



3つ目の大きな特徴は、**非課税での保有期間が無期限になる**点が挙げられます。旧NISAのうち一般NISAでは非課税保有期間が5年と定められており、この期間が経過すると、保有している投資信託や株式は課税口座に移される仕組みとなっていました。このため、6年目以降も非課税のまま投資を続ける場合は、「ロールオーバー」という手続きが必要でした。

しかし新NISAでは、この非課税保有期間の制約がなくなります。つまり、生涯投資枠の1800万円以内であれば、投資信託や株式を永久的に非課税のまま保有し続けられるのです。そのため投資家はロールオーバーの手続きをする必要がなくなり、非課税投資の利便性が向上します。

また、新NISAでは先ほど触れた通り、売却した投資信託の購入金額分、生涯投資枠を再利用できます。例えば、新NISAで100万円分の株式を購入した場合、非課税での生涯投資枠は残り1700万円となります。しかし、100万円分の株式を売却すれば、翌年には生涯投資枠が1800万円に復活します。

新NISAで資産1億円を貯めるには？

ここまで新NISAの仕組みやメリットについて解説してきました。ここでは、新NISAで資産1億円を貯める方法についてシミュレーションしてみたいと思います。

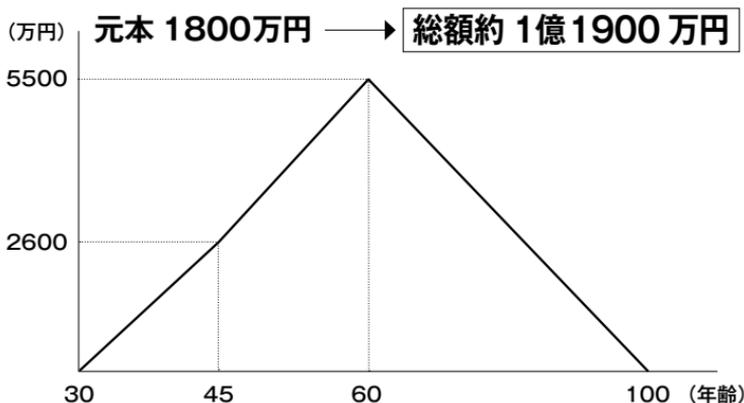
まず一番のポイントは、**生涯投資上限額である1800万円をいかに早く埋めるか**です。これが、資産を増やす最も重要な鍵となります。早く埋めることで非課税の恩恵を受けられる期間が長くなり、資産の増加に拍車がかかります。

例として、30歳から45歳の間に毎月10万円を新NISAで積立投資するケースを考えてみましょう。この15年間で毎月10万円を積み立てると、生涯投資上限額1800万円に到達できますし、その間に年利5%で複利運用すると、45歳の時点で約2600万円まで増



【新NISAで資産1億円を貯めるシミュレーション】

- ・ 30歳から10万円/月を15年間投資（年利5%）
- ・ 45歳から60歳までは年利5%で運用を継続
- ・ 60歳から100歳までは生活費26万5000円/月を切り崩しつつ残額の運用を継続



やすことができます。

そして約2600万円を60歳になるまで同じように運用すると、約5500万円になります。

60歳以降は、この約5500万円から生活に必要な分を切り崩しつつ、さらに運用を継続します。仮に生活費が月額26・5万円であるとして、その生活費分を新NISA口座から毎月引き出していくとしましょう。毎月の生活費分を差し引いた残額は年利5%で複利運用を続けるとすると、新NISAの運用資金だけで、60歳から100歳の

近くまで過ごすことが可能になるのです。

運用で得た利益と、60歳から100歳近くまで切り崩していった生活費を計算した結果、合計約1億1900万円になります。このように、生涯投資上限額である1800万円を早く埋めれば埋めるほど、新NISAで資産1億円を作りやすくなるのです。

年間5%の運用益は、米国株にインデックス投資を行った場合で考えると、十分に達成可能なリターンです。新NISAは長期運用を前提とした仕組みのため、米国株を利用した投資手法と相性が良いのです。

私の投資スクールでも、新NISAを活用したFIREの投資手法を教えています。

資産1億円を目指すためには、新NISAを利用して効率的に資産を増やし、生涯投資上限額を早く埋めることが肝要です。新NISAを最大限に活用してFIREを達成し、早期退職を目指しましょう。

「コラム」ドルの破綻で米国株が暴落する

近年、経済の専門家やアナリストの間でドルの崩壊リスクが議論されています。「金持ち父さん 貧乏父さん」シリーズで有名なロバート・キヨサキ氏も、そのリスクを強く指摘しています。

彼はFRBのバランスシートの健全性をリサーチし、それに対して懸念を示しているのです。バランスシートとは、企業や国の財務状況を示す報告書で、資産と負債、純資産の3つの要素から成り立っています。これを見れば、どれほどの資産と借金があるのかを把握できるので、財務の健全性を確認し、投資判断の材料にすることも可能です。

ロバート・キヨサキ氏の指摘するところによれば、米国のバランスシートは悪化しており、特にFRBの資産として計上されている部分が、実際には大部分が借金

【FRBのバランスシート】

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
金地金	11,037	発行銀行券	2,180,271
SDR	5,200	リバースレポ	1,891,190
現金	1,244	預金	4,720,894
証券等	8,742,593	準備預金	3,825,076
財務省証券	5,716,217	その他負債	27,623
連邦政府機関債	2,347	負債合計	8,819,978
住宅ローン担保証券	2,660,821	(純資産の部)	
その他資産	100,411	純資産合計	40,507
資産合計	8,860,485	負債純資産合計	8,860,485

出典：THE GOLD ONLINE

であるということです。

次の図はFRBのバランスシートであり、左側が資産、右側が負債と純資産に分けられています。資産の部を見ると、上から「金地金」、「SDR」、「現金」とありますね。SDR(Special Drawing Rights)とは日本語で「特別引き出し権」と訳され、ドルやユーロ、円などを引き出せる権利のこと。

このようにバランスシートでは、どれほどの資産をいくら保有しているのかが分かります。

ここで注意していただきたいのが、資産の

部にある「証券等」と「その他資産」であり、実はこれらの資産は、実質的な借金と同じなのです。実質的な資産は金地金とSDR、現金だけで、それ以外はすべて負債ということになります。

すなわちFRBのバランスシートに計上されている科目のうち、全体に占める約1%だけが資産で、残り約99%は借金なのです。これは、米国が大量のドルを印刷し、市場に供給する過程で生じた借金が増加しているためです。

ロバート・キヨサキ氏が指摘しているのは、「**米国が実際に持っている資産と比べると、借金の量が多すぎる**」、「**それほどまでにドルは刷られ過ぎていて、いつかドルの価値は大暴落する**」といった点です。

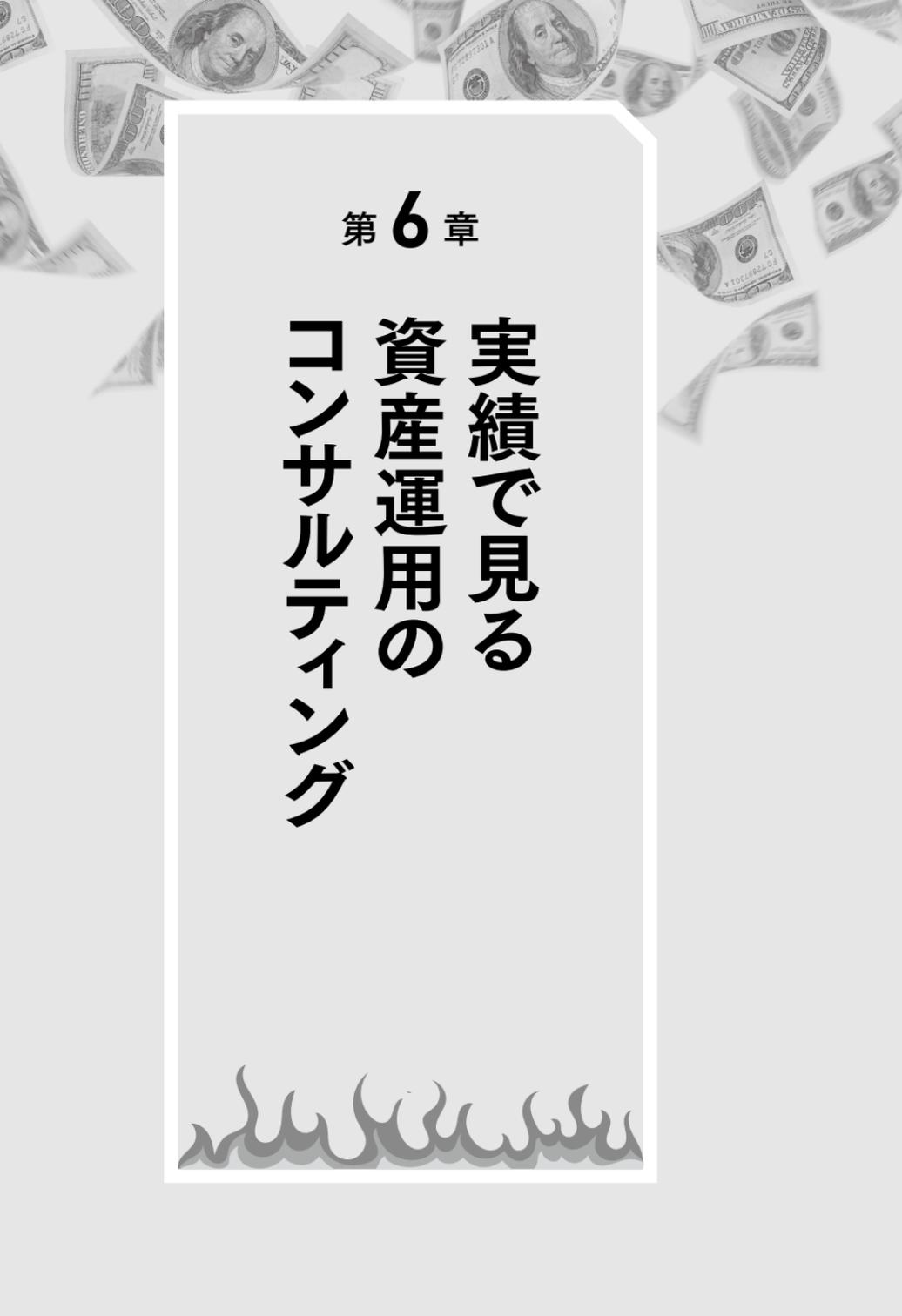
もしドルが崩壊すれば米国株はもちろん、日本を含めた世界中の国に影響を与えるでしょう。そしてこの暴落は、いつやってくるのか分かりません。本当にドルの崩壊が発生すれば、本書で述べてきた米国株のインデックス投資は通用しなくなっ

ていく恐れがあります。ですので、インデックス投資をしても報われなかった時のリスクヘッジも重要になるのです。

米国は世界経済の中心なので、ポートフォリオの多くを米国の証券で運用している投資家は多いでしょう。しかしドルが破綻し、米国株の価値が暴落すれば、多くの投資家はベターな資産運用の方法を見つけるのが困難になります。

私が運営している投資スクール「FFC」では、ドルや米国株のリスクヘッジについても教育しています。仮に世界中の投資家が危機的な状況に陥っても、私のスクール受講生は取るべき行動が分かっていますので、落ち着いて対応できるでしょう。

本書を読んでくださっているあなたにも、ぜひそのようなリスクヘッジをしつつ、余裕のある生活を送っていただければと思います。



第6章

実績で見る
資産運用の
コンサルティング



FFFC(Financial Free College)とは

ここまで米国株でFIREを目指す方法について解説してきました。ここからは私の主催する、米国株でFIREを目指す投資スクール「FFC(Financial Free College)」について紹介します。FFCの特徴は、マンツーマンでのコンサルティングを提供することです。そして、そのコンサルティングを担当するのは、米国株で数千万円〜1億円以上を運用し、FIREを実現した経験と専門スキルを持つ、私を始めとしたFFC専属コンシェルジュたちです。

お金の仕組みを学ぶFFCは、ただの講座や学校ではありません。それは、人生を変え



るための第一歩、新しい未来へのきつかけとなる場所です。代表の私の他にも、トータル・ライフ・コンサルタント（生命保険協会認定FP）で個人投資家であり、SNSの総フォロワー数7万人を持つ講師や、不動産投資アドバイザーで宅地建物取引士の個人投資家など、多様なバックグラウンドを持った専門家のコンシェルジュたちが在籍しています。

こうした「経験者に質問できる」ことが、FFCの最大のセールスポイントです。

ただ講座を受講するだけでは、次のような悩みが生まれる例があります。

- 講座に参加してみたけど内容が分からない
- 分からない事があっても質問できない
- 家に帰ってからどうやって調べて良いか分からない

FFCではこれらの悩みを解消するため、私を含めた専門のコンシェルジュたちが次の

ような個別サポートを提供します。

- 講座で分からない箇所の解説
- 証券口座の使い方レクチャー
- ポートフォリオの見直し
- 資金管理のアドバイス
- 固定費の見直し
- 投資のタネ銭の作り方アドバイス

私たちの目標は、すべての受講生が不安を取り除き、正しい理解を持って実践できるようになることです。そのため、コンシエルジュが通常講座に加えて、あなただけの授業を行います。米国株への投資を通じて自由な生活を手に入れるための第一歩を、FFCで私たちと一緒に踏み出しませんか？



【FFC 専属コンシェルジュたち】

FIRE達成へと導くリーダー

山口 貴大

やまぐち たかひろ

株式会社バイアンドホールド
相談役
KADOKAWAセミナー認定講師



FFCで仲間と一緒に、
楽しく株式投資を学びましょう！

FFCの代表。米国株の運用はもろ人、事業売却の経験もあり、法人のコンサルも得意とする。多数の受講生をFIRE達成に導いた実績があります。

- 資産運用キネス記録保持者
- SNS総フォロワー数35万人

米国株数千円運用経験者

金盛 潤一

かなもり じゅんいち

生命保険協会認定FP
個人投資家
SNS総フォロワー数7万人



ネットビジネスでの
投資のタネ銭作りはお任せ下さい

ファイナンシャルプランナーとして、初心者から上級者まで保険の見直しを得意とする。

自身でも米国株を数千円運用して、安定したリターンを得ている。SNS総フォロワー7万人で、ネットビジネスのコンサルティング能力が高い。

不動産投資に強いコンサル

藤田 圭佑

ふじた けいすけ

不動産投資アドバイザー
宅建業種免許
個人投資家



株式投資と不動産投資の

両方の楽しさをお伝えします。

一棟マンション・一棟アパートを使った資産運用の相談に乗ってきたアドバイザー。

自身でも株式投資と不動産投資を両輪で運用する個人投資家。初心者から富裕層まで人気のコンシェルジュです。

受講から半年でFIRE達成

織田 秀行

おだ ひでゆき

ファイナンシャル・
プランナー・
会社員から株式投資でFIRE達成
個人投資家



私のFIRE経験をこれからFIREを目指す

人達のために役立てたいと思います

FFCの受講生から半年でFIREを達成した個人投資家。現在はFFCの講師として活躍中。

ディフェンシブなポートフォリオを提案するのが得意です。

FIREを達成したFFC受講生の声

「今は無料の動画コンテンツも充実しているし、投資スクールに入るメリットが分からない」
「投資スクールに入っても、金額に見合った成果が出るのか不安だ」

このように考えている方もいるのではないでしょうか？

たしかに今はインターネット上に情報は満ち溢れていますし、無料コンテンツでも優れたものは多くありますが、実際に自分で行動してみると細かい内容が理解できなかつたり、失敗の原因が分からず挫折してしまつたりと、効率が悪くなります。

FIREを達成するにはここまでお伝えしたように、複利効果を最大限に活用するため長期投資をする必要があります。あなたの貴重な投資期間を削ることなく、最短距離で



FIREに到達するためにも、FFCで投資を学び、実践していくことをおすすめします。

ここからは、実際にFIREを達成したFFC受講生の声を紹介しましょう。

「1000万円の含み損↓FFCで逆転FIREを達成しました」50代男性

Gさんは、50代で3億円の金融資産を運用してFIREを達成しました。純資産が約5億円あったものの、8000万円投資した銘柄の暴落を受けて不安な日々を過ごすなど、FFCに入るまでには紆余曲折がありました。

Gさんは15年前、空調設備などを行う建設業の会社を35歳で父親から受け継ぎましたが、経営は火の車だったそうです。

「5億円の借金を抱えていたので、銀行からの貸し剥がしのプレッシャーは凄まじく、代表になってからの15年間と受け継ぐ前の6年間の、合わせて21年間は、年間365日は働いていましたね」

しかし2020年、新型コロナウイルスの影響で仕事の受注が激減、売り上げはガクッと落ちてしまいました。

「このまま受注が減り続けていけば、本当に廃業に追い込まれるかもしれない。それが現実味を帯びてきました」

これがきっかけとなり、将来を見越した資産運用を考えるようになったと言います。

ただ、インターネットやYouTubeを見て勉強してみたものの、2億円を一体どのようなペースで、どのタイミングで投資すれば良いのかが分からなかったそうです。



そして2022年1月からは、FRBがインフレ抑制のために金融引き締めを実施し、株価は暴落しました。投資した2000万円は、いつしかマイナス200万円〜300万円程度になっていました。

このまま資産運用を継続するのは不可能だと考えたGさんは、FFCに入会を決意したそうです。

FFCでは、講座だけでなくコンサルティングもあるのが特徴で、今に至るまでの経緯や資産のポートフォリオについて、Gさんはコンシエルジュにすべてを打ち明けました。相談した結果、Gさんは米国株のETFを中心にインデックス投資をコアにして、サテライトで配当銘柄に投資すると決めました。

2022年は大幅な利上げがあり、株価は乱高下しましたが、FFCのコンシエルジュに米国株の超長期チャートを見せてもらいながら「歴史的に米国株は上昇しており、下落

しているのは長い歴史の中でもたった数年の話ですよ」と助言を受けたことで、気持ちが一変したと言います。

FFCの講座で経済や株式投資の基礎を学んだことで知識の土台が身につき、コンシエールジュからは株式投資の下落と向き合う精神論を学んだGさん。大金を投資して株価が下落しても、不安を感じることはなくなつたとのこと。

講座入会前に8000万円を投資した時は、最大で1000万円の含み損がありました**が、分散して投資したかきもあり、2億円を投資した現在は含み益に転じたそうです。**

「今思うと、インターネットとYouTubeだけで運用していたら、含み損のストレスから株式を売却して撤退していたと思います」

FIREを達成した現在でも会社経営は継続されていますが、精神面で大きな変化があつたそうです。



現在のポートフォリオからは、年間配当金は500万円ほど、税引後でも400万円ほどが入るとGさんは話します。

「最悪、事業から撤退しても配当金があれば、少しでも働けば生活していける！ そんな気持ちの余裕ができました」

その余裕から売り上げも徐々に上向いてきているそうで、FIREを達成したことにより、仕事へのプレッシャーが半分以下になったと言います。

最後にGさんから、読者の皆様にメッセージをいただきました。

「インデックス投資は簡単だと思って安易に投資した結果、痛い目にも遭いました。投資の世界では一瞬で資産がなくなるということを実感しました。お金持ちの人でも、まだお金持ちでない人でも、勉強をすることで本当に豊かになれると思います。もちろん、人生

はお金がすべてではありませんが、理想の人生を実現するツールがお金です。夢を持って
いる人、夢を実現したい人にはぜひ、お金の勉強をしていただきたいです」

このような成功を得られる背景には、コンシエルジュのサポートがあります。

Gさんのように、大きな挫折を経験して入会した多くの方々も、投資の成功を実感して
います。

「手取り300万円台から7カ月でFIREできました」 40代女性

手取り年収300万円台からFIREを達成した受講生の1人、Bさんの成功体験談を
ご紹介します。

Bさんは前職では高収入でしたが、効率的な働き方を模索し、コールセンターに勤務す
ることを決めました。



「前職では仕事内容がハードで労働時間も長く、生計に困ることはありませんでしたが、いつまでこんなに忙しい日々を続けるのだろうか？ という不安を感じていました」

Bさんの年収は300万円台に下がりましたが、節制を続けていたため、毎月12万円もの貯金ができるほどの余裕がありました。

この節制により、4代に入った頃には数千万円という金融資産を築いていましたが、**現**
金比率が高く、FIREを達成するには運用益だけではとても生計が立てられないと気づ
いたそうです。

「もともと資産運用には興味があり、FIREへの憧れもありました。そこで数々のセミナーを受講してみたものの、短期トレードや個別株などはリスクが高く、自分には向いていないと思いました。ローリターンでもリスクが低くて堅実な運用がしたい……そんな自

分の要望にマッチしたスクールはないのではないか？ と半ば諦めていた頃、FFCに出会いました。米国株ETF中心の運用が自分には合っている！ FIRE4%ルールの運用を真剣に学びたい！ と思い、入会を決心しました」

FFC入会后、Bさんが未上場企業の持株会で積立をしていたという銘柄が上場しました。評価額は飛躍的に上がりましたが、この株式が「まだ上がるのではないか？」という思いも捨てきれず、売った方が良いのか、持ち続けた方が良いのか、Bさんには分からなかつたそうです。

「FFCのコンシェルジュに相談したところ、すべて売却して米国株に投資すれば、FIREを達成できると言われました。最終的には自分で判断し、アドバイス通りに売却しました。私が売却した翌営業日にその銘柄が20%近い暴落をしたため、1日でも売却が遅れていたなら売り時を逃していたかもしれません。行動に移せた自分を褒めてあげたいです」



Bさんにとって、円をドルに両替するのも初めての経験でしたが、コンシエルジュが精神的な支えになってくれました。

このような流れで、Bさんは**40代後半でFFCに入会し、本格的に資産運用を始めてからわずか7カ月で、見事にFIREを達成**しました。

FIREを実現した現在、Bさんは自分の時間を有効活用するため、日本語教師の資格取得に向けた勉強をしています。

また、趣味の一環としてヨガに通い、健康への投資も行っています。

FIREを達成したことで、Bさんは生活に不安を感じる事がなくなり、ストレスフリーな毎日を楽しんでいます。余裕ができたことで、仕事も年収ではなく、**自分が本当にやりたい仕事を優先して選べるようになりました。**

最後に、読者の皆様へのメッセージをうかがいました。

「若い時にガムシヤラに働いたことで、今の自由が成り立っているのも事実です。私の経験からアドバイスをさせていただくとするならば、若い時には精一杯働くことが一番重要だと思います。しかし人は誰も考えていくので、その次にはお金に働いてもらうことが大切です。人それぞれ自分に合った運用をすれば良いと思いますが、先入観だけで拒否せずに、ぜひチャレンジをしていただきたいと思います。お金やビジネスについて学んでおくと、思いがけないことから人生のチャンスが広がる可能性があります」

Bさんのように、持株が上場したり、自分に合った資産運用スタイルに出会えたりと、FIREを達成できるかどうかには、運の要素もあるでしょう。

ただ、FIREを達成した方たちを見ると、共通して「運を引き寄せる力」を持っている



るとも私は感じています。

それは日頃のお金の使い方や学ぶ姿勢、そして人に対する感謝の気持ちかもしれません。Bさんご自身も、「私1人ではFIREを達成できませんでした。導いてくださった周りの人たちに感謝しています！」と仰っていました。

そのようなマインドやコンシエルジュの献身的なサポートが、FIREの達成を後押ししました。

「手取り500万円台から4カ月でFIREできました」 50代男性

受講生の中で、手取り年収500万円台のAさんが、FIC入会からほんの数カ月でFIREを達成しました。現在は自由な時間を過ごしています。

「手取り年収500万円台の会社員だったのですが、2017年4月〜2020年9月まで中国に駐在員として勤務していました。その後、2021年の2月末にFFCに入会して3月から資産運用のコンサルティングを受け、4月いっぱい会社を辞め、2021年5月1日からFIRE生活をスタートしました」

こんなにも早くAさんがFIREを達成できたポイントは、「節約家」であつたことです。同程度の年収の同僚や、より年収が高い上司は、高級車に乗ったり住宅ローンを組んで豪邸に住んだりして、貯蓄に回していませんでした。

そんな中、Aさんは周りに流されることなく、浪費はせずに、コツコツと貯金していたそうです。

この貯金額を加速させたのが、中国に駐在員として滞在していた頃です。

海外赴任手当が出る上に、日本にはいないため車やバイクにも乗らない、趣味のスキーやダイビングにもお金を費やさない。つまり、収入は増えたのに支出が減つたのです。



おかげで中国に駐在した3年半で、貯金が1000万円以上は増えたと言います。

「日本に帰国した時には、預金残高は数千万円と大きな額になっていましたが、資産運用をほとんど行っておらず、せっかくの大きな資本を活かしきれていないと気づき、マネースクールに入会することを決意しました」

私が主催するFFCでは、全体講座だけでなく、個別コンサルティングも行っています。Aさんは都内の好立地に不動産を所有されていましたが、その分野に強いコンシェルジュを付けました。

2021年3月からコンサルティングが始まったのですが、当時はコロナショックから1年が経過し、金融緩和の影響で、株式だけでなく不動産もバブル状態。特に都内の立地の良い不動産は、価格が高騰していました。

F F C のコンシエールジュは A さんに、「今のタワーマンションを売却して、価格がまだ上がっていない別の地域の不動産に買い替えをするのはいかがでしょう？ そうすれば、引越しをするだけで数千万円の投資のタネ銭が作れて、F I R E を達成できますよ！」とアドバイスしました。

A さんは早速アドバイス通りに実行し、見事に数千万円のタネ銭を手に入れました。そして、もともと銀行預金も数千万円貯まっていたため、この資金を米国株に投入。F F C に入会してからわずか4カ月で、見事にF I R E を達成しました。

A さんの金融資産のポートフォリオは、83%がリスク資産、17%が現金です。リスク資産の内の99・65%が米国株式(S & P 5 0 0 連動E T F)、0・23%が債券E T F、0・12%がビットコインです。

現金比率が低めですが、A さんは固定費が低いため(年間支出300万円弱)、このポ一



トフオリオでもFIREを実現できています。固定費が高い方は、現金比率を上げないとFIREは失敗するリスクが高くなると知っておいてください。

「それまでは貯金のみでしたが、数千万円の投資を行うのに恐怖心はありませんでした。講座で経済を理解したため、資産運用に対して正しいマインドセットができていたからです。数千万円のタネ銭もドルコスト平均法のように1年や2年をかけて投資する方法ではなく、入会した直後の2カ月間で2回の資金投入で完結させました。コンシエルジュも付いていたので、安心感がありました。当時は株価が絶好調で、代表のライオン兄さんからも、積立投資よりも押し目が来たら一括投資が効果的と、日々アナウンスを受けていましたので、相場的にもラッキーでした」

Aさんの2021年の投資リターンは約800万円で、わずか半年で会社員時代の年収を超えてしまったそうです。FFCに入会するのに数十万円は掛かりましたが、1年以内

に約20倍以上のリターンがあり、自己投資をして本当に良かったと思っっているそうです。

「もしもあの時に自己投資を惜しんで入会せず、自己流で始めていたら、数千万円を投資する度胸は付きませんでしたし、不動産売却のチャンス逃していたと思います。そもそも住み替えるという発想自体ありませんでした」

FIREの達成前と後では、生活に変化が起きたそうです。一番大きく変わったのは「朝の過ごし方」だと言います。会社員時代は6時に起床し、7時には出勤のために家を出る生活を送っていました。

「FIREを達成してからは、朝は8時に起きてゆっくりとコーヒーを飲みながら、経済情報の新聞やWebメディアをウォッチし資産の管理をしています。FIREの醍醐味は、自由な時間を満喫できることです」



Aさんの月の支出は約30万円で、4%ルールの米国株の切り売りで配当金で生計が成り立ちます。すでに完全FIREを達成していますが、それでも好きな仕事としてFFCで講師を務めております。

最後に読者の皆様へのメッセージをうかがったところ、次のように話してくれました。

「FIREは人によってスタイル、タイミングもさまざまです。基本は固定費を上げないことと、正しい金融知識を身に付けて堅実に運用することです。自己流で学んでいても、結局はうまくいかないと思います。自分ではうまくいっていると思っても、経験のある人から見れば、ロスをしている場合も沢山あります。結論としては、最初の自己投資を惜しまず、堅実な運用と正しいFIREマインドを学ぶことが、成功への近道だと思います」

Aさんのお話からも、最初の自己投資の重要性が分かります。自己流で資産を溶かすよりも、自己投資をして一刻も早く資産を有効活用する方法を学ぶことが大切です。



資産運用開始から4カ月でFIREを達成したAさん



FFCを設立した想い

そもそも私がFFCを設立した背景には、自分自身の経験と、日本社会で増えつつあるお金に関する問題への対応があります。

20代から30歳まで、私はほとんど休みがない環境で働いていました。日本ではお金に関する義務教育が存在しないため、自力で学ぶ以外に方法がありませんでした。

そして、お金について学び起業や投資を行うことで、時間とお金を同時に手に入れ、人生が豊かになりました。

近年、日本では老後2000万円問題や新型コロナウイルスの影響で、お金や働き方、

投資について悩む方が増えていきます。お金は人生においてすべてではありませんが、生き
るためには避けて通れない必須のツールです。そこで私は、自分の人生とお金に真剣に向
き合いたいと考える方々をサポートする場を作りたいと思いました。

このような想いから、FFCを設立しました。私たちは、お金や投資、起業に関する教
育ができる環境を提供することで、皆様にとってより良い学びの場となるよう心掛けてい
ます。そしてそれが、人生を好転させるきっかけとなることを願い、スタッフが一丸とな
ってサポートをさせていただきます。

おわりに

本書を手を取っていただき、また最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。

FIREを達成するための道のりは決して容易ではありませんが、正しい知識と戦略を持つことで、その夢は現実のものとなります。

ここまでの内容をまとめると、資産を増やすために最も効率的な方法として、「資産運用」が挙げられます。

特に、投資の基本である「長期・分散・積立」に最適なのがインデックス投資です。その中でも本書で紹介した通り、FIREを目指す方にはS&P500やVTIがおすすめです。

また今後は、新NISAの投資信託を活用すれば、複利効果と非課税限度額を最大限に利用して、資産の最大化を狙えます。

しかし、資産運用は独学で行うのは難しく、不安を感じる方も多いでしょう。そんな方々におすすめしたいのが、私の主催する投資スクール「FFC(Financial Free College)」です。

FFCの最大の魅力は、マンツーマンでのコンサルティングを提供することです。そして、そのコンサルティングを担当するのは、米国株で数千万円〜1億円以上を運用し、実際にFIREを実現した経験と専門スキルを持つ、FFC専属コンシェルジュたちです。

お金の仕組みを学ぶ場所は、ただの講座やセミナーではありません。それは、人生を変えるための第一歩、新しい未来へ踏み出すきっかけとなる場所です。

F F Cの講師陣は、生命保険協会認定FPや不動産投資アドバイザーなど、多様なバックグラウンドを持った専門家たちです。そして、「経験者に質問できる」ことこそが、F F Cの最大のセールスポイントです。

受講生からは、「あの時、入会して本当に良かった」と喜びの声を多数いただいています。

資産運用に関する不安や疑問を持つ方は、プロのコンシェルジュがマンツーマンでサポートするF F Cに、ぜひご相談ください。

特に「セルフ年金構築講座」では、次のような効果が期待できます。

● 20年で5000万円の資産を作り、セルフ年金を得られるようになる

●投資やお金について基礎的なリテラシーが一通り身に付く

●投資のタネ銭を作れるようになり、安定的に投資ができる

さあ、私たちと一緒に経済的自由を手に入れ、FIREを達成して人生をもっともつと楽しみましょう！

山口貴大（ライオン兄さん）

～ FFC ～
マンツーマンコンサルティング

興味のある方は
以下の QR よりご登録ください。



Financial Free College代表 山口貴大（ライオン兄さん）

株式会社バイアンドホールド代表取締役社長
金融・起業スクール「Financial FreeCollege」（FFC）代表
TikTok、YouTubeでは「ライオンさん」名義で活動

1980年奈良県生まれ。ネット関連会社などにて、8年間のサラリーマン生活を送るも、給料は上らず“鳴かず飛ばず”の「低空飛行」状態が続き、32歳の年収は327万円。一念発起して、金融・起業の書籍をむさぼり読み独立。エンターテインメント会社を興し、2018年に売却。その利益を米国株中心に運用し、“経済的自由”を獲得、「完全リタイア」を実現した。

悠々自適の生活を送り、メディアへの露出も増えたことから、「お金の相談」を受けることが多くなり、FFCを立ち上げる。「大金持ちではなく、一般人がお金を増やすためには？」という庶民の資産運用にこだわった講義の評判が口コミで広がり、2021年、「投資家が推奨するお金のスクール」「未経験から学べるお金のスクール」「結果が見込めるお金のスクール」でそれぞれNo.1を取得、米国株のマナー講座部門で3冠を達成した（日本マーケティングリサーチ機構調べ）。受講者の中からは「年収の高低」にかかわらず、多くの「FIRE達成者」を現在進行形で輩出している。同年、「資産運用をしよう！」という言葉でTikTokで世界一広めたとして、ギネス認定。

「お金の正しい知識を得ることで、そのストレスから解放され、すべての人が自分らしい人生を送る」をモットーに、マナーリテラシーの普及に日々励んでいる。趣味は旅行、温泉、サーフィン。

YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UC×kiN35K-JNZKV9m0fEzN2w>
TikTok : <https://www.tiktok.com/@takalion23>

世界一堅実にFIREする米国株投資

2023年11月15日 初版発行

著者／山口貴大

編集・制作／株式会社ビーパブリッシング

編集協力／池田昇太

印刷所／株式会社クリード

発行／株式会社バイアンドホールド

©Takahiro yamaguchi 2023 Printed in Japan

ISBN 978-4-910837-24-6

※乱丁、落丁本はお取り替えいたしますので、発行元まで着払いにてご送付ください。

※本書の内容の一部または全部を無断で複製、転載することを禁じます。

※投資の最終判断は、ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

※本書の内容に従って投資を行い、損失を出した場合も著者及び発行元はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

※本書は特定の金融商品を勧めるものではありません。